

第7回双葉町復興まちづくり委員会 議事録

- 日時：平成25年1月17日（木） 委員会 午後1時00分～午後2時45分
部会 午後3時00分～午後3時50分
委員会 午後4時00分～午後4時30分
- 場所：双葉町役場埼玉支所 4階家庭科室
- 出席者：双葉町復興まちづくり委員会委員
事務局（双葉町企画課）

（参照：第7回双葉町復興まちづくり委員会座席表）

1. 開 会

【三井所 清典 委員長】

新しい年に入りまして、初めての会議でございますけれど、雪の中、道路交通事情の悪い中、遠路お集まりいただきましてありがとうございます。意義ある委員会として進行させていただきたいと思いますので、よろしくどうぞお願いいたします。それではまず、皆様にご報告を申し上げます。去る12月26日に双葉町議会が解散されました。このことから復興まちづくり委員の議会選出委員であった岩本久人委員と菅野博紀委員の2名が同日付で委員の身分を失った旨、議会事務局から復興まちづくり委員会委員長あてに通知をいただきました。従いまして、本日の会議から議会選出委員が選出されるまでの間、2名の委員が欠員となりますことをご報告いたします。よろしくをお願いいたします。本日の委員会は前半で「双葉町の復興まちづくり計画に盛り込む項目等について」審議をいただきます。そのあと各部会に分かれて部会ごとに課題における取り組みの考え方についてご審議いただきます。部会の後、もう一度お集まり願いまして、委員会の全体会を開催し、各部会の審議結果についてそれぞれ各部会長から報告いただき、意見を交換したいと考えております。よろしくをお願いいたします。

2. 議 事（前半）

（1）計画に盛り込む項目等について

【三井所 清典 委員長】

それでは早速でございますが、前半の審議に移りたいと思います。前半の審議のテーマは「双葉町復興まちづくり計画に盛り込む項目について」になります。それに先立ちまして、まず初めに資料2にありますように今年の1月4日の双葉町の仕事始めにおいて、今後のふるさとへの帰還や生活保障の取り組みについて「双葉町の道しるべ」となる考えが井戸川町長から示されました。この内容は双葉町復興まちづくり計画の大きな柱になるものであると思いますので、資料2でございますけれど、委員会の冒頭に井戸川町長からこの道しるべについてお話をお願いいたします。井戸川町長よろしくをお願いいたします。

【井戸川 克隆 双葉町長】

皆様、改めまして、明けましておめでとうございます。なかなか「おめでとう」という言葉が出にくい環境ではありますが、やはり慣例でもございます。年の初めのご挨拶をさせていただきます。

38 す。皆様には昨年以來、大変いろいろとご尽力・ご協議をいただきましてありがとうございます。
39 本日は第7回となりました。そして、会議も進みまして、生活再建部会、ふるさと再建部会、き
40 ずな部会という3部会が誕生したようであります。いずれにしましても、双葉町にとっては、前
41 例のないこと、また、日本においても前例のない議論をしているわけでございます。それだけに
42 生む苦しみを皆様は味わっているかと思えます。私も指針のない中で、町の舵取りを今している
43 わけでございますが、委員長さんからありましたように議会の解散という重い決断をいたしました
44 いろいろ細かい話はここでは割愛させていただきますが、なんと言っても住民主体の町でな
45 ければならないというふうな思いをしております。この責任も重く感じているところでございま
46 す。

47 資料に入る前にご報告をさせていただきますが、昨日と一昨日、広野といわきの仮設とそして
48 また昨日は、郡山の浄化センターにある広域市町村圏組合の会議の席上、石原環境大臣に、井上
49 副大臣にもお出でいただきました。15日は広野町役場で大島理森復興委員長さんを始め、県内
50 選出、特に浜通り選出の3名の国会議員の皆様にも同行していただいて、そして県議会の方から
51 も地元選出議員、そしてまた幹事長さんにも来ていただきました。この流れというのは私も非常
52 にスピード感があるなど、そんなふう感じたところでございます。そして何よりも話を聞くと、
53 現場に来ると、そういう姿勢もスピード感があるようでありますし、この大島理森さんは以前から
54 原子力発電所に係る調査会の主要なメンバーでございました。従いまして、このような姿にな
55 った双葉町を、あるいは双葉郡をどうするかということについては、何よりも最優先で取り組ん
56 だだけの方だなというふうに思っております。仮設におきましても、南台の仮設におきまし
57 ても、思い切った発言をされて帰られました。ぜひ、そのようなスピード感のある進め方を国会
58 運営、国の施策の運営を期待しているところでございます。

59 それでは、唐突であったかもしれませんが、私が新年の挨拶で職員を前にして語った「双葉町
60 の道しるべ」について思いを述べさせていただきます。皆様の方から、「町長が何か早く示せ」
61 という強い要望がありました。これは強く感じておりました。ただ無視をしている、投げている
62 訳ではございませんでした。今までの会議をみますと、誰かがこの式次第をつくってしまうと、
63 その中でだけの議論になってしまうと、これでは困ったなという思いをずっとずっと前から感
64 じておりました。議題をつくる方は本当に限られた数名の方がつくってしまうのですね。次第を
65 つくるのは。しかし議論というのは大勢の方が議論するわけですが、どうしてもその次第にのっ
66 とった議論のなかでしか進まないということで、問題意識を考えておりました。あってはなら
67 ないことのなかで、また前例のないまちづくりを行うに当たっては、そのような前例に基づかない
68 皆様の中からもいろいろ議論をしていただいて、生む苦しみを伴いながら、それぞれ今まで人生
69 中で考えて、また経験されてきたこと、あるいは若い人にはこれからの町に対する希望を大いに
70 盛り込んでいただいきたいと、完全なる式次第、あるいは方針というものは示してきませんでした。
71 しかし、ここまできますと、いよいよ皆様方の議論も佳境に入りました。この佳境をどうす
72 るかについては、やはり、1つの数字を示さなければならないというところに至ったというふう
73 に感じております。我々は帰る気持ちはなくしてはいけないと思っております。しかし残念ながら
74 ら、双葉町は全国一、今度の事故で一番高い放射能の地域を有しているわけでございます。その
75 なかで、健康、被ばくに対する考えを全く無視した形のまちづくりはできません。従いまして、

76 これを最優先として、ICRPの2007年勧告、1m Svを上限するというを最優先に示させてい
77 ただきました。これがなくして、次の世代、あるいはその次の次の世代も健康な町民でなければ
78 ならないわけでございます。不確かな情報によりますと、今のウクライナでは、20%しか健康な
79 若者がいないと言われております。80%は働くことができない、その気力が沸かないというか元
80 気のない若者がいっぱいいるということも聞いておまして、非常に伝染病を被ばくであっても
81 放射能の影響というものは大きいものだというふうに危惧をしているところでございます。

82 2番目に、30年というのは、これは一般的に言われているセシウムの半減期を用いました。半
83 減期であっても半減期までは早いんですが、その半減期からあとが非常に緩いカーブになってな
84 かなか減衰いたしません。しかし、一定の暫定的な目安として30年という数字を挙げさせてい
85 ただきました。これについては、本当にいろいろな方から批判もあるようでありまして、賠償の
86 問題もこのぐらい見ておかないといけないのではないだろうかとというふうに私は考えておりま
87 す。この事故は我々には全く責任がございません。放射能なんていうのはまかないという約束で
88 原発を誘いたしております。従いまして、本当に郷土双葉町が安全になるまで、これぐらいまで
89 は賠償が延長されるべきという判断も込めております。もう早いところでは賠償の打ち切りとい
90 うことがでて、大変その地域の住民の方は困っております。私たちは一番、日本で一番濃い地域
91 を有している双葉町としては、やはりこのぐらい見ておかないと路頭に迷ってしまうと。皆様が
92 本当にまだまだ生活再建なんてなかなかおぼつかない中で、打ち切りなんかあったんでは困ると
93 という意味も含めてございますので、ぜひ前向きに捉えていただきたいと思っております。生活保障とい
94 うのは、イ・ロ・ハと述べておりますが、やはり最低限この3つの条件を入れておかないと困る
95 というので、入れさせていただいております。

96 3番については、やはり健康を重視した形で、今度の事故は最初の出だしは、私は間違ったと
97 思っております。政府の発表、直ちに影響ないということ、果たして本当だろうかということが
98 これから実証、検証されます。しかし私は内部情報というか、限られた情報の中では、県内では
99 すでにいろいろな病気が発症しているという事例を承っております。やはりこの事故は、今の自
100 民党政権にお願いしているのは、「最初からリセットしていただきたい」という、「隠ぺいありき
101 の中でやっていってもらおうと困る」ということを言っております。こういう意味で、協力をして、
102 事実解明をして皆様に情報を共有していただいて、そして、先が見えるような安全・安心が本当
103 に自分で信じられるようなことが必要だということでございます。放射性物資は、まだ第一原発
104 の方からは出ているんですね。出ていることにやはり皆様も意識をしていただいて、「まだまだ
105 危険ですよ」と、したがって、脅かされない状態を確約していただきたいということですね。そ
106 れから敷地内にまだまだ汚染水のタンクですね。あれが非常に高濃度のタンクもあります。22
107 万m³の容積で今やっていますが、もう足らなくて70万m³の容積に増やすそうでございます。その
108 ようなこともあるために我々帰還を目指すとするれば、それらも安全な状態にさせていただかなけれ
109 ばダメだということでございます。悲観的になるかと思っておりますが、しかしこれは現実を現実と捉
110 えて、危険から自分を守るという意味も含めて今後のまちづくり、皆様方の議論の中で少しは参
111 考にさせていただければありがたいと思っております。

112 あと皆様方から投稿されましたリストを、目を通させていただいておりますけども、非常に胸
113 が熱くなることから反省させられることからいろいろな意見をいただいております。これらもた

114 だ机の上に載っけてるんじゃないなくて、私は全ページ、マーキングをしております。後程お答えを
115 していきたいと思っております。まだまだこれから議論、本当の積み上げの中でやっていただく
116 ようになりますので、多くの委員の皆様には、前向きなご議論と大きな成果を私の方にいただき
117 たいとお願い申し上げまして、つたない説明と挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願
118 い申しあげます。

119 【三井所 清典 委員長】

120 井戸川町長、どうもありがとうございます。ここで、委員の皆様から町長お出でになります
121 ので、ご質問があれば、お伺いお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。町長よろしゅう
122 ございますか。どなたか、ご質問あるいは確認等いかがでしょうか。町長の思いが語られました。
123 長いような短いような 30 年とか 1m Svの話など内容の重いものと思っておりますけど、道しるべとし
124 て意識しながら、今後のスケジュールなど、どうやって検討するかなどのベースにさせていただ
125 きたいと私としては思っておりますけど、よろしゅうございますか。

126 【齊藤 宗一 委員】

127 私自身も年度末、私事で不幸があったもんですから、欠席させていただいたんですが、復興会
128 議、委員会、町長さんご挨拶以来のしばらくぶりの今日のご出席なんですが、こういった考え方、
129 できればやっぱり始まる時にお願いしたかったかなと、そんな気持ちで聞かせていただきました。
130 そのようなことが今の双葉町の流れの中で一番疑問視されていた件だったのかな。もし、まだま
131 だ年度いっぱいこの話が続くと思っておりますが、もし何かご意見ございましたら、私はこういった考
132 えなんだということを 1 日でも早く皆さんにご理解いただくようお願いしたいなと思っております。
133 お願いします。

134 【井戸川 克隆 双葉町長】

135 上手くお答えできるかわかりませんが、やはり私は、町については希望のある町、希望が感じ
136 られる町であって、国あるいは、県から押しつけられるような町であってはならないというふう
137 に思っております。特に若い人たちが住んでくれることが絶対条件かなとそんなふうと思ってお
138 ります。若い人のいない町というのは町になりません。そこで高齢者と一体となってお互いにコ
139 ミュニケーションよく、また人生を助け合うというようなことが必要でありますので、是非その
140 ような方向が、見出していただければありがたいと思っております。あと、欲を言えば、町なか
141 にお客さんが来てくれるような町があると、そこでお土産屋さんからなにか全部いながらにし
142 てビジネスが成り立つということ、いわゆる来客が多いようなまちづくりをぜひ欲張って、皆様
143 には遠慮せずに大きな欲を出していただいて来客がしやすいような環境があると今後の町が、町
144 自身が企業というか、そういったものが、いいのかなとそんなふうに思います。そしてまた、世
145 界で最大の事故を経験しておりますで、外国からも見学客が、「この町に向かっていくといろい
146 ろな資料館があつていいな」と、「是非あそこをコースにしよう」というそういうふうな発想も
147 必要かなと思っております。私、福島復興再生協議会の中で唯一双葉郡の復興について申しあげたこ
148 とは、「ラスベガスをつくってくれ」と申し上げました。しかしあまりにも唐突みたいで、その後
149 誰もその協調してくれませんでしたけど、やはり今は世界最大の犠牲をしているわけですから、
150 やっぱり最高の幸せを求めるような方向を私は言うべきかなと。双葉町になんか研究施設をつく
151 っても、なかなか就業の場を確保する、あるいは来客があるとかいうその活性化には繋がらない

152 んじゃないかなと思ひまして、ラスベガスがあるぐらいのまちだと、何があっても来てくれるだ
153 ろうと、そんな思ひを述べさせていただきますけど、まとまらなかったようです。採用されな
154 かったようですけれども。そんな思ひを一言申し添えさせていただきますと思ひます。ありがと
155 うございました。

156 【三井所 清典 委員長】

157 いろいろな場面で町民にお話願ひたいということをおっしゃったと思うんですけれども、そう
158 いう意味でまた受け取っていただきたいと思ひます。他にございませんでしょうか。

159 【木村 真三 委員】

160 どうも、獨協医科大の木村です。1つだけ僕、町長を含めてお伺ひしたいこと、あの悪い事じ
161 ゃないですよ。あの決して変なお話じゃないんですが、議員、議会とか町長が変わった場合、こ
162 こまで審議したことが全部水の泡になりたくないなど。それだけが気になって。民主党政権から
163 自民政権に代わって話をご破産という話いっぱいありますが、これが、ここまでみんな集まっ
164 て議論してきたこの話が、全部無駄になってしまったらという危機感を正直感じておひまして、
165 この7000人の復興会議という町民の考え方をまとめていくというのも大切ですし、この復興ま
166 ちづくり委員会というこの委員会で話し合ったことというのが、無駄になってしまわないよう
167 とにかくこれだけは何があっても続けていくし、維持していくんだということ、入れてもらわ
168 ないと僕も三井所先生も宇杉先生も有識者の人間たち含めて一生懸命考えて、そういうところ
169 があると思ひますので。ぜひとも、これだけは維持していただきたいというのが私の願ひであり
170 まして、これ今言っとかないと、あの時言わなかったからだと言われると困りますから今言っ
171 ておきたいと思ひまして言わせていただきました。どうもありがとうございます。

172 【井戸川 克隆 双葉町長】

173 これは、本当に大事な会議だと思ひております。それで、仮設まわりをしても、高齢者の方
174 から「早く仮の町をつくってくれ」と、「一日でも早くつくってくれ」、「ここで俺は死にたく
175 ないんだ」という悲痛な要望が出されました。従ひまして、委員の皆様も、委員長さんをは
176 じめ、このことが、うやむやになることは決して私は望んでおりません。皆様の力で、やはり
177 継続をしていただきたい、そのように思ひます。

178 【三井所 清典 委員長】

179 木村先生からご発言いただきました。私も今日の会議に参加するに当たって、年末からのこと
180 を、いろいろ考えられました。木村先生と同じようなことも考えました。これは多分委員の
181 皆様もすべてがそうであろうなというふうに思ひます。私としては、とにかく町長が最初にご
182 挨拶いただいたけれど、この後は「こうしろ」とか「ああしろ」とかということは一言もおし
183 らずに、町民の多くの町民の意見を聞いて、それからあの方針を定めていくようにというふう
184 に言われたと思ひておひまして、それを実行して参りましたし、委員の皆様も復興について早く
185 まとめたいという気持ちがおありのなかで、町民の意見に耳を傾けることを基本にいろいろな部
186 会での検討も仮の思ひといひましようか、町民の意見がまとまる前なんだけど、委員として
187 はどういうふうを考えていくかということを検討してまいりましたし、このベースをもって、
188 7000人の復興会議とそれから住民意向調査があがってまいりますので、これをベースに検討して
189 いくんだということが、これまでの部会の検討の上に、それを町民の意向を踏まえてやっていく

190 ことをずっとやらさせていただきたいというそういう思いで続けて、きちんとやっていくべしと
191 いうふうに思って今日の会を迎えております。そういうつもりで委員の皆様もぜひ、これまでの
192 蓄積を無駄にしないで、計画のまとめに、3月までとても忙しいスケジュールでも、かなり密な
193 スケジュールを一応想定して、皆様をお願いしているんですけども、それはそういう思いもあ
194 ったことですので、どうぞよろしく願いいたします。木村先生、ありがとうございます
195 ました。それでは、町長がこれで退席されます。

196

197 【井戸川克隆双葉町長退席】

198

199 【三井所 清典 委員長】

200 それでは昨年の12月までの6回の委員会と3回の部会を開催して、前回の委員会で1月から
201 3月にかけて復興まちづくりの計画案を策定、進めていこうということを審議してまいりました。
202 いよいよ本年3月までには双葉町の復興まちづくり計画案が策定に向けて議論を進めていくこと
203 になります。本日の委員会は、その計画案に盛り込む項目を整理して、いわゆる目次立てのよう
204 なことを意識しながら、検討進めていきたいというふうに思っております。それではまず、双葉
205 町復興まちづくり計画案に盛り込む内容について、資料3でございますけれども、これを企画課
206 長の方からご説明をお願いいたします。なお、質疑意見交換については資料説明が一通り終わり
207 ましたあとでお願いしたいと思います。では、課長よろしく願いいたします。

208 【事務局 駒田 義誌】

209 それでは、私の方から資料3についてご説明をさせていただきます。本日、委員会で議論して
210 いただくのは、復興まちづくり計画に盛り込む内容、目次立てをご議論いただきます。こちらに
211 つきましては、昨年、前回の委員会の際、委員の皆様から年末年始にかけて盛り込むべき内容に
212 についてのご提案、資料8という形でまとめさせていただいておりますが、そのいただいたご意見、
213 また資料9になりますけれども、これまでの委員会での審議でなされましたご意見等を踏まえま
214 して整理をさせていただいたもので、本日はこれに対してさらに追加、修正すべき点がないかと
215 いうことについて、ご議論をいただきたいと思っております。本日のこの目次立てに基づきまして、こ
216 れから骨子またこれを計画にしていくということが作業となっていきますので、その意味では今
217 回ここでまず、皆様にどういう項目を、内容が、この計画になればいけないのかということに
218 ついて、ご意見をいただければと思っております。

219 復興まちづくり計画ですが、大きく3つ分かれる柱立てを提示しております。1つ大きい柱は
220 まず、まちづくりの基本的な考え方ということで、ここに括弧してビジョン編と書いております
221 けれども、大きな考え方というのをまず冒頭にしっかり書くということ。その後に双葉町復興ま
222 ちづくりに向けた取組、施策編とありますが、具体的な取組みについて、書いていくということ、
223 こちらはそれぞれの部会で、丁寧、十分な議論をしていただくということになるかと考えていま
224 す。最後に3つ目としては、双葉町の復興まちづくりの実現に向けた体制ということで、計画を
225 どう実行に移していくのかという観点のことを記載するというのが大きな柱になります。まず1
226 つ目の柱であります双葉町の復興まちづくりの基本的な考え方、ビジョン編というところにつ
227 きましては、まずこの場で復興の定義というのを明確にしていくということ、また、復興まちづく

228 りの基本理念、キャッチフレーズというものを定めていくということ、あと3点目として、復興
229 まちづくりの基本方針、ここに盛り込む内容というのは、帰還の見通しの考え方、また計画の大
230 きな柱立て、また短期、中期、長期の目標の考え方といったところを、整理して書いていくとい
231 うことになるかと思えます。この部分につきましては、後に資料の4、5、6で、整理したものを
232 ご審議いただきたいと思っております。それを本日の意見、また次回委員会で十分ご議論いただ
233 いて、まず基本的な考え方を整理していくということをごさせていただければと思えます。

234 続いて、施策編の方につきましては、1つは町民一人一人の生活再建を目指す取組ということ
235 で、こちらは生活再建部会の方で後程、仮の町の実現に向けた取組、また生業の再開、雇用の確保
236 教育環境の確保、当面の避難生活の改善といった生活再建の取組についての内容をご審議いた
237 だきたいと思えます。ふるさと再建部会の方でふるさと再建に向けた取組ということで、帰還
238 に向けた条件、条件達成に向けた取組、また双葉町の当面の土地利用のあり方、双葉町の再興に
239 に向けた取組ということについて、後程、ふるさと再建部会で具体的な内容の項目立てをご審議
240 いただければと思えます。3点目として、きずな部会の方になりますけれども、双葉町民のきずな
241 維持・発展ということで、コミュニティの維持・発展、また歴史・伝統・文化の継承、避難先住
242 民との交流促進に向けた取組といったところを個々に整理して書いていくということで、ここは
243 きずな部会にご審議をお願いしたいと思っております。これらの施策編の具体的な内容につきま
244 しては、2月に出てまいります住民意向調査、また7000人の復興会議での様々な町民の皆様
245 ご意見、ご提案というのを整理して、2月の部会で集中して議論をいただきたいと思っております。
246

247 次3番目の大きな柱でありますまちづくりの実現に向けた体制ということですが、これは
248 この復興会議の成果、教訓を踏まえて、今後のまちづくりの体制、町民参画の体制であるとか、
249 そういったところへの示唆であるとか、後は計画の見直しのプロセス、またこれは各委員から
250 ご提案の中にも多く見受けられましたけれども、双葉郡内各市町村との連携というのが大事だ
251 という意見もありましたので、そういった観点の今後の進め方へ提言といったところを、まとめて
252 いくという章立てを提案させていただいております。

253 次のページをおめくりいただきますと、具体的に施策編が大きなポイントになってこうよ
254 うかと思えますけれども、こちらのまとめ方になりますけれども、7000人の復興会議、また住民
255 意向調査ということで、この年末にかけて、昨年未までの間に町民の皆様の意見を吸い上げてい
256 いくことをやってきました。これをまさにこの部分に活かしていきたいと思っております。
257 町民の皆様から出された課題、困り事、ご要望といったもの、また町民の皆様から様々に何々
258 した方がいいのではないかとといったご提案も出ております。そういったものを項目ごとに整理
259 して、取組の方向という形で計画の具体的な方向性に整理をしていきたいと思っております。そ
260 の中には、町民のご提案の中には、当然相反するものもあるかと思えますので、それをどうい
261 うふうな形で計画に盛り込むのかというところをまさに2月のこの委員会までご議論をいただ
262 いてまとめていきたいと考えております。

263 続きまして資料4ということで、本日の主要なテーマである基本的な考え方に関わる部分につ
264 いてですが、まず、計画の基本理念、キャッチフレーズということで、これは要は計画のまさに
265 基本的なベースになるものになりますけれども、こちらにつきましては、町民の皆様
の思い、7000

266 人の復興会議の意見の中からも、「一日でも早く安心できる生活を」、「町民が1つになること」、
267 また「みんなで助け合っていけばなんとかなる」、また「戻れるような双葉町にしない」、
268 「私たちの手できれいに子孫を残したい」、「ふるさとをなくしてはならない」、また
269 「帰りたいけど帰れない、それを覚悟したまちづくりが必要」といったご意見が出ております。
270 またこの年末年始にかけて皆様からいただいたご意見・ご提案等、かなり数多くのご提案をいた
271 だきました。こちらについて、それぞれ書かれているキーワードを見てみますと、3つの大きな
272 グループに整理ができるのではないかと思います。1つは町民の絆・結びつきに関わるようなテ
273 ーマのキャッチフレーズのご提案、また帰還に向けた決意を表したようなご提案、また生活再建
274 に向けた決意を表した言葉、こういったところに大きく3つに、いただいたご提案というのは集
275 約されていくのではないかとこのように整理をさせていただきました。本日の論点でありますけ
276 れども、このキャッチフレーズというものは、たくさんいただいているので、できるだけたくさ
277 んとありますけれども、やはり端的に表した言葉というものがよろしいかと思いますので、それ
278 ぞれからこういう委員の皆様方からいただいた提案から、1つずつ選んでいくということ。また
279 今はこれは年末までいただいた案ですけれども、他にもこういった言葉がいいのではないかと
280 うご提案を踏まえた上で、計画をまとめるまでの間に、ここから計画のキャッチフレーズとい
281 うものを選んでいくということをしてはどうかということが本日の論点、ご提案でございます。

282 続いて資料5になりますけれども、計画の基本的な考え方についてということで、まさに計画
283 を、これから施策を具体的に書いていく際にベースとなるものになります。この基本的な考え方
284 について、案を整理しましたのでご審議をいただきたいと思っております。1つはまちづくりの定義で
285 あります。この双葉町の復興まちづくりの定義について計画の中ではっきり謳う必要があります。
286 これまでの議論を重ねていった中でみますと、やはり復興という言葉が人によって捉え方のイメ
287 ージが違っている面があったかと思っております。それを今一度、ここで整理をしますと、やはり今、
288 この原子力災害という事態に直面した復興ということを考えますと、まず町民一人一人が生活再
289 建を果たしていくという復興、いわゆる人の復興という概念と、双葉町の土地を復旧・復興して
290 町を再興させていくという復興、これは長期的な取組としての復興、いわゆる町の復興と。人の復興
291 と町の復興という2つの復興というのをこの計画の復興の概念として捉えることを大きく打ち出
292 してはどうかというのが1つのご提案でございます。

293 続きまして基本方針としまして、この計画をつくっていくに当たって、大きな柱立てを決めて
294 いく必要があります。その際の大前提として、帰還の目標の考え方というものを計画に書き込む
295 必要があります。これにつきましては、先程町長が申しあげました道しるべを基にしまして、帰
296 還の目標ということで、町民の安全・安心を最優先に考え、帰還にあたっての放射性物質の除去
297 は、年間追加被ばく線量が1m Sv以下になることを目指すと、その時間を考慮して、帰還の目標
298 を暫定的に30年後とするということを帰還の目標として書くということについての議論をいた
299 だければと思っております。なお、ここにつきましては、後程資料6でもう少し詳しくご審議をいた
300 きたいと思っております。

301 その上で、この計画の大きな柱として、まず項目としての3つの柱、あとそれをベースにする
302 考え方ということで、大きく4つ項目掲げていますけれども、1つは、町民一人一人の生活再建
303 の実現が1つの柱として書いています。もう1つが、町民のふるさとへの帰還を目指しますとい

304 うことが2つ目の柱。3つ目の柱として、町民のきずなを維持・発展するというのが3つ目の柱
305 というので、この3つ柱を支える土台として、町行政と町民が協働して、町民の力を結集して、
306 町民主体の復興を目指すということ、これがその土台となるという考え方に整理してはどうかと
307 というご提案です。

308 具体的にその町民一人一人の生活再建を実現するということの具体的な中身ですけれども、ま
309 ず1つは帰還が可能となるまで避難先で、町民一人一人が避難先で生活再建が実現できるように
310 するという。2つ目として、町民が置かれている状況が多様であることを踏まえて、多様な
311 選択肢を示して、町民のニーズにあった生活再建を支えていくということ。3つ目として、家族
312 の営みや生活を成り立たせるための住居、仕事を確保すること。4つ目として、健康な生活、就
313 学、医療が適切に受けられる環境を整備するという。5つ目として、町民の生活再建の原資
314 となる賠償が迅速、確実、十分になされるように国、東京電力に求めていくということ。これを
315 小項目として提示をいたしております。

316 2つ目の柱である双葉町民のふるさとへの帰還を目指すということの基本方針としては4つあ
317 りますけれども、1つはまず安全・安心を最優先に考えるということ。2つ目として、徹底した
318 放射性物質の除去を進めるということ。

319 3つ目として、福島第一原発の廃炉作業の安全確保というものを国、東京電力に求め、帰還す
320 る町民が新たな放射性物質の漏出に脅かされないようにするという。4つ目として、帰還が
321 長期化する中であっても、双葉町の土地の荒廃を防ぎ、町民の皆様のふるさと双葉町への思いを
322 つなぎ、将来の子どもたちに双葉町を引き継いでいくということを方針として書いております。
323 3つ目として、町民のきずなを維持・発展するというので、まず、全国に散らばっている町民
324 のきずなを維持し、新たなコミュニティをつくるということ。2つ目として、ふるさとを奪われ
325 る中であっても双葉町の歴史・伝統・文化は確実に継承するという。3つ目として、この事
326 故の情報を共有し、その教訓を全国・世界に発信していくということ。これをきずなの維持・発
327 展の基本方針として整理しております。この点について、こういった整理また項目内容について、
328 ご議論をいただきたいと思っております。

329 続きまして資料6と資料7になりますけれども、資料6ということで、短期、中期、長期の目
330 標の考え方ということで、それぞれこれから施策を考えていくに当たって、それぞれ時間軸に沿
331 った目標を、考えていく必要があります。それを整理したものが資料6というものになります。
332 資料7にそれに係わる動向を整理しておりますので、横に見ながら説明をお聞きいただければあ
333 りがたいと思っておりますけれども。まず1つ、短期、中期、長期の捉え方ですけれども、先程町長の
334 道しるべの中に、「帰還の目標は暫定的に30年後」という目標、考え方が提示をされました。そ
335 こから考えますと、まず30年後以降というものが長期、双葉町を再興していく時期に当たるの
336 ではないか。そこから逆算しますとではそれまでにどういう取組をしていくのかということ、
337 1つありますのがやはり生活再建まず早期にやらないといけないということからすると、まず5
338 年後というのをターゲットにおいて、短期、この5年後の短期の時期に生活再建というものをや
339 っていく再建期というもの。その5年後から30年後の間には復興期ということで、この間に大
340 きく生活再建を軌道にのせていくと平行して、除染・インフラを本格化していくというような動
341 きということを位置付けていくというこの短期・再建期、中期・復興期、長期・再興期とこの3

342 つの時間軸に沿って、ではそれぞれの項目でどういった目標が考えられるのかというところを下
343 のところに整理しておりますけれども、1つは町民一人一人の生活再建ということで、まずこの
344 5年の短期の間にそれぞれ一人一人の町民の皆様方に生活再建の目途をつけていただくというこ
345 と。その大きな施策としては仮の町の整備等が入ってこようかと思っておりますけれども、まず生活再
346 建の目途をつけていくということ。中期はその生活再建を軌道にのせていくということ。長期と
347 しては双葉町への帰還が可能となった段階で、町での生活を再興していくというこういった流れ
348 が1つ考えられます。

349 2つ目として、ふるさとへの帰還ということからすると、まずは目標の30年後というまでの
350 間は一時帰宅というものを通じて、ふるさとを常に身近にしていく取組をしていかななくてはなら
351 ない。

352 またその次、オレンジ色で書いているところになりますけれども、ふるさとの再興の準備とい
353 うことで、まずこの短期の間というのはこれから区域の見直しも行われますけれども、その中で
354 双葉町は多くが帰還困難区域になっていくことが放射線量から見込まれます。そういったなかで
355 あってもやはり、このふるさとの荒廃を防ぐ、土地の荒廃を防ぐこういった取組というのはやっ
356 ていかなければいけないということ。その上で5年が経つと区域の見直しが再度行われていきま
357 すので、そういったなかで放射線量の状況を見ながら、この除染・インフラ復旧という双葉町の
358 土地を、本格的に復旧していくということを行いながら、帰還の目標に向かって取り組んでいき、
359 町内の線量が下がった段階で、双葉町に戻って双葉町を再興していくというのが大きな時間軸の
360 流れとしております。この部分につきましては、上の方の四角に書いておりますけれども、やっ
361 ぱり除染の技術、また廃炉作業の技術といったところはまだまだ見えないところがございます。
362 その意味では、この技術の進展というところに期待をいたしまして、やはりその技術の進展の状
363 況に応じては、場合においては、その10年、20年という段階でも、帰還の見通しというのが
364 前倒しできないかどうかということ、それは常に念頭に置きながら計画の見直しをしていくと
365 いうことで、この10年、20年というのを1つの見直しのタームとして、時期として考えていく
366 というので、ここに点線を入れております。

367 また、青字で書いてある町民のきずなという面では、まずこの短期の間に、きずなを維持して
368 いく取組をしっかりやっていく。その後、避難先と融合しながら、コミュニティづくりをしなが
369 ら、可能となった段階でコミュニティを再興していくという流れ。

370 また歴史・伝統・文化の継承という観点から言うと、この短期のうちに、歴史・伝統・文化の
371 記録をしっかり残すという取組をした上で、中期の間に、その歴史・伝統・文化を継承し続け、
372 いざ双葉町に戻った段階で、それを再興していくということを大きな目標として掲げてはどうか
373 というので整理をしてございます。

374 そのなかで、大きな論点として、ご議論いただく必要がありますのは、まず帰還の時期のこの
375 中期と長期の間のこの30年後という部分に関わってきますけれども、この目標を1m Svとな
376 った時点とすることでよいかどうかということが1つの大きな部分になります。また、もう1つの
377 論点が、帰還というのを全町同時に帰るとするのか、放射線量が低いところから部分的に進めて
378 いくのかということについては、委員会としての意思統一が必要な部分かと考えております。
379 やはり高線量な地区というのを30年後1m Sv以下とするのは自然減衰では到底できませんので、

380 相当な除染というものがようになってきます。その点については資料7の方で、少し国の分析、
381 また前回12月に木村先生に発表させていただいた資料を改めてつけておりますけれども、例え
382 ば、資料7②というのを見ていただければ10年後、20年後というときには自然減衰の見積もり
383 の中であっても、10年後、20年あとでも町内が1mSv以下に全てがなるという訳ではなくて、
384 やっぱり線量20mSvを超えるところ、50mSvを超えるところというのが残っております。こう
385 いったところを除染でどれだけ少なくしていくということもありますが、部分的に低くなったと
386 ころをどうするのかというところは1つの大きな論点でございます。それは資料7の③、④、⑤
387 に木村先生の12月のご講演いただいた資料をつけておりますけれども、町の体育館、また石熊
388 公民館といったところでは0.23 μ Sv/hまで減衰するまでには、約10年弱という一方で、山田地
389 区の場合は、では130年強ということになっておりますので、こういったところも見て、あくま
390 でも全町同時と考えるのか、部分的な帰還ということも念頭に置いて、考慮に置いて考えるのか
391 というところについてはこの目標設定の考えと合わせて、今の道しるべの考え方も踏まえてご議
392 論をいただきたいと思えます。資料につきましての説明は以上になります。

393 【三井所 清典 委員長】

394 駒田課長ありがとうございます。資料3の①で、まとめていくに当たっての大きな構成とし
395 て、目次立てという言葉も出ましたけども、最終目次とは違いますけれども、どのような内
396 容の構成でいくということが資料3で説明いただきまして、資料3の2枚目では、短期、中期、
397 長期の考え方というのがあるということで、内容はその後の資料4では、町民からの意見と委員
398 会の皆さんからの意見を踏まえて大きな枠、項目の中に当てはめてみるとどのような言葉が
399 使えるかと、基本理念の言葉が使えるのかというふうなこと。資料5では、さらに内容の詰めと
400 して文章化され、復興提言について項目ごとに文章で表現されている。資料6は、短期、中期、
401 長期の考え方の具体的な内容に入っていく入り口が示されている。段々この内容が深くなって
402 いくということで、今日は初めてたたき台として皆さんの意見を踏まえ、事務局の方で整理をして
403 いただきました。これを今日と次の31日までの間にさらにご意見を伺いながら、検討を深めて
404 いくという意味で、今日のはたたき台ということでございますが、そういう意味でご意見を自由
405 にいただきたいというふうに思います。ご意見いただいた委員の方がお出でになりますので、で
406 きればその補足をするというような観点から、ご意見を出された方で直す必要があると思われた
407 方で、今日の整理についてのご意見等についてご発言いただければありがたいと思えますが、い
408 かがでしょうか。大きな項目、ビジョン編と施策編と体制というこういう3つの分け方について
409 は今日のところはこれでよろしゅうございますでしょうか。中身についてでございますけれども、
410 補足で「こういうの抜けているんじゃないか」とか、「私はこういうつもりでこの前言ったんだ
411 よ」とかいうのがございましたら、補足をお願いしたいのですけれども。

412 【宇杉 和夫 委員】

413 宇杉です。1つだけ、建築で集合住宅とか、生活空間についてやっているのですが、資料7の
414 ①で「避難生活」というのがあります。その前に生活再建というのがありますが。10年にわた
415 る生活を避難生活という形でくるのか。「仮居住」とか、避難というだけじゃなくて、新しい
416 方向に打って出るまでいなくても、どういう形で住んでいくのかという、その避難と言うとや
417 やマイナスという弱そうな感じがしますので、仮居住とか避難生活という形で10年を考えるの

418 ではなくて、もちろん避難生活という側面はありますけれども、どういう自分たちの生活と新しい生活空間をつくっていくんだという、そのプロセスですので、避難生活ということは言葉だけ
419
420 ですがちょっと弱いのかなというふうにして考えていただければというふうに思います。

421 【三井所 清典 委員長】

422 双葉という土地に帰って復興するということを考えるとすれば、それまでの間は避難だという
423 言い方もあるだろうということで、今事務局のたたき台では避難ということに、項目が出てると
424 思いますけれど、10年を超え、20年、30年と生活する場が果たして避難生活だろうかというふ
425 うに思うと、別の言葉で表現した方がいいんじゃないのかなとそういう気持ちがよく分かるよう
426 な気がいたします。30年といえば、生まれてから一人前の大人になって仕事をバリバリやり始
427 めてるような時間ですから、これ人生の半分過ぎるぐらいの活動の時期ですよ。一人一人の生
428 活をきちんと安定させていくという意味で、仮の町というようなことがあって、なんかいい言葉
429 があればという提案です。宇杉先生からも具体的に言葉を提案されたわけではないけど、気持ち
430 が表現されて、皆さんも同じだと思いますが、何かございませんでしょうか。

431 【木幡 敏郎 委員】

432 この30年ということについて、これはあくまでも町長の考えであって、町民とか復興委員会
433 の考えでは、私は切り離してまず考えるべきだというふうに思ってたんですよ。それで、一応30
434 年というのは町長の道しるべで示されましたけれど、それは町長個人の考えではと思って、こ
435 こに30年と。実際は、多くの方が、例えば他町村のアンケート、双葉町はこれでとっているよう
436 ですけど、3年から5年が我慢できるというふうな話は聞いております。しかも、これが5年、
437 10年、20年、30年、でもこの放射線量のデータを見て、無理もないなと思いつつ、ある面では
438 除染の技術も今、真剣に国も取り組んでいるはずですから。少なくともこの30年はこの復興
439 委員会で検討すべき、それは住めるという意味で。30年経ったらもうそれは避難ではなくても
440 う新しい暮らしで自立だと私は思っております。もちろん自立はしながらも、ある程度のしっか
441 りとした補償は国、東電の責任であってもらうべきだと思っておりますけれど、このまちの計画が30
442 年でいいのかということに疑問をもって、発言をさせてもらっている。もっとやはり短めで考
443 えるべきではないか。それは例えば頑張っても20年とか。少なくともこのデータで色が染まって
444 いるところを期待して、その辺は復興委員会で考えるべきではないかなというふうに思いました。
445 正直30年も待っている方はいないのではないかな。町はそんな計画を立てるのかというふうな、
446 そんなふうな声が聞こえるような、今のところはそんな思いで大変なことかなと思っております。

447 【三井所 清典 委員長】

448 具体的な数字が初めて示されて、私も正月のテレビのニュースで初めて知って、「30年という
449 数字は長いのか」、「短すぎないか」、「どっちだろう」と思ったりしました。これはいろいろな方
450 がいろいろな思いをなさっているだろうと思います。駒田課長も30年についてその町内が1m
451 Svとなった時という言葉がありますから、もっと早く1m Svになれば、早くなる可能性も暗示さ
452 れているだろうなというふうに思ったりもします。ですから、30年という数字がそのまま数字
453 として固まっているのではなくて、その条件というのがあって、条件をどういうふうに捉えてい
454 たらいいかということなんではないかと思うんですね。そういう意見は資料6について、意見
455 をいただこうと思っておりますけれども、資料6の「10年目、20年目に見直しをしましょう」

456 ということでのいろいろ説明があったように思います。それは、技術の進展と状況の変化が
457 今確たる情報を私たちは持っていなくて、何を根拠に数値を決めて、目標を決めていったらいい
458 かということが分からないのです。この間から木村先生の説明を伺ったりしながら、もっと短
459 いかもっと長いかというそこもやっぱり一人一人の思いの中で、木村先生も「それは決めるのは
460 皆様です」とおっしゃって、「私は間違っただけでない情報を皆様にお伝えします」、「私が知る限
461 りにおいて」というようなお話をいただいていると私は思っております。間違っただけを言えな
462 い立場だということをおっしゃりながら、ご説明いただいたことにとても感激してるんです、そ
463 ういうことを受け止めた個人の委員の皆様として議論していいと思いますし、今 30 年と
464 いうのを固定的に捉える必要はないと私は思っています。先程、繰り返しになりますが、条件が
465 整ったらというのがついてございます。そういう意味で、条件等について想定されるような話、
466 情報を発言されたい方がお出でになりましたら、お伺いしたいと思っております。今の木幡委員の
467 考え方について、さらに認識を深めていくということいかがでしょうか。資料 6 のところで大
468 きくは、町長の話で書いておりましたけれども、2007 年の国際的な基準の 1m Sv というのを条
469 件に、「それが可能になったら帰ろうよ」という話になっていますけれども。アンケートではも
470 う少し高くても帰るといようなアンケートがあったと思うんですね。それはまだ町民の方々の
471 集計がされていませんので、そういうのが町民の意向としても見えてきたときには、また話をす
472 ることになると思いますけれど。いかがでしょうか。

473 【高野 重敏 委員】

474 高野です。私、山田地区に住んでいました。この資料によると、 $1\mu\text{Sv/h}$ で 67 年とか、最後の
475 $0.1\mu\text{Sv/h}$ になるのには 167 年。私は 150 年とずっと言い続けてきたんですが。双葉町の帰る帰
476 られないの判定というのは、放射能の線量によって考えざるを得ないと思うんですよ。だから帰
477 れる場所、帰れる時期ですか、それについては線量の低いところと極端に山田地区のように放射
478 線量の高いところ、これ分けて考えるべきだと思うし、町長さんのおっしゃった 30 年というの
479 は、私は少ないと思って考えていたんです。私はせめて 150 年と考えていたものですから、その
480 半分の、いくら技術がよくなっても 75 年ぐらいは無理だろう。だから私からするとあと 3 代は
481 双葉町には帰れないという考えの基に、新生双葉町をつくるという 1 つの考え方でずっと通して
482 いるんです。だから、帰る帰らないは線量の高さによって時期を決定する。そういう形の方が私
483 はいいのではないかと思います。山田地区については 3 代ぐらいは帰れないし、帰らない。そう
484 いう考えでおります。以上です。

485 【三井所 清典 委員長】

486 大変重い議論が進んでると思いますが、いかがでしょうか。

487 【西内 芳徳 委員】

488 西内と申します。前段の木幡委員、高野委員と話を伺って思うことなのですけど、やはり
489 資料 7 の①で「避難生活」、この辺をもっと具体的に煮詰めるべきじゃないのかなと思う点が、
490 避難生活、仮設住宅は状況を見ながら延長も判断、ただ一番肝心の災害公営住宅が点線のままで
491 は一番いけないと思うんです。用地設定から何からいついつまでに着工して、いつ完成して、いつ
492 入れるのかを、それをこの会としては、はっきりしてもらいように要求すべきだと思います。
493 この点線のままではどうしたらいいのか町民自体が判断し兼ねると思いますので。それでももっ

494 と、短期的な面で具体的に煮詰めてほしいという要望を出すべきだと思います。

495 【三井所 清典 委員長】

496 こういうハードなものを想定するには、想定する時期が、時期を想定する必要があります。こ
497 れは建物は仮設住宅と違って恒久の施設としての建物を使われるんですね。それは20年とか30
498 年ではダメになるような建物ではないわけですね。

499 【西内 芳徳 委員】

500 耐用年数の具体的な数字も示してほしいと思いますし、場所も。

501 【三井所 清典 委員長】

502 そういうものをつくった後は、これの活用はその後どうなるのかということも想定しながら、そ
503 の立地する場所との関係とか、いろいろと複雑に考えていかなくちやいけないことが。

504 【西内 芳徳 委員】

505 まず、受け皿をはっきりさせないことには、事が進まないのではないのかなと思います。これ
506 立場のある人でないと決められないと思うんですけど、国なのか、県なのか、その辺に双葉町と
507 して要望を出すべきです。

508 【三井所 清典 委員長】

509 まず要望を双葉町の要望を出すということがあって、その要望をもって県とか受け入れ自治体
510 と交渉ということになっていますよね。

511 【木村 真三 委員】

512 木村ですが、この期間30年という話、町長のお話なのですが、これまず、基本的に事故の様
513 相は全然違うけれども、お手本となるのはチェルノブイリというものがありますよね。僕は今月
514 末からまたチェルノブイリの方に帰って、向こうの方の支援の方が入っていくのですが。要はこ
515 の原発直近のこの場所で、30年で帰るということ自体がまずあり得ないというのが僕の正直な
516 気持ちなんですよね。だって、双葉町の役場があるぐらいの距離、原発からの距離でいえば、ウ
517 クライナの場合はプルトニウムも何もすべてが吹き飛んで落ちてきたところですよ。ちょっと様相
518 が違うんですが、250年帰れないんですよ。「250年帰れない」というふうに国が決めているわ
519 けなんですよ。30kmゾーン、これは、1万k㎡という、日本でどのくらいなのかというのを
520 僕が言ったときに、僕四国の生まれなんで全然わからないんです。想像がつかないんで、どうし
521 ようもないんですが、僕は京都大学原子炉実験所の今中さんが試算したときに1万k㎡と、京都
522 府と福井県と滋賀県を併せた大きさ、これが1万k㎡なんですよね。ここが帰れない、今もって
523 帰れないところ、人も入っていけないところというふうになっているわけですよ。これを隣の犬
524 熊なんかでも帰還しますと、僕「何を考えているんだよ、ここは。ありえない。」しかも、これ
525 って科学者の感覚と違って一切無視しているわけですよ。帰りたいのは分かりますよ。帰りたい
526 という、希望はね。でも、現実をちゃんと考えた上でやる、考えていく上では到底無理じゃない
527 かと。しかも中間貯蔵施設はどこに置くというのと、これだけの除染とかそういったもので出て
528 くる、出てきたものが、それを濃縮する技術、セシウムを濃縮する技術とかそういったものをき
529 ちんと確立した上で、ある程度進めていかねばならないってことは先が全然見えないわけですよ。
530 だったら、僕はその見直しというのは非常にいい言葉であって、とりあえず、町長が言う30年、
531 30年の間に帰るというわけじゃなくて、見直しを繰り返しながら決めていくというような形で

532 長期展望を持ちながら、出来るだけ早く帰れる方法というものを、これは国の方策やその技術的
533 な革新というものを含めた考えで、5年毎の見直しをしながら考えていく、先を見つめていくと
534 いうような形じゃないと、多分やっていけないんじゃないかなと思うんですよ。だから、高野
535 委員がおっしゃるように山田地区150年帰れない、僕はそれもあると思うんですよね。それだっ
536 て、もし技術的に除染が可能で、除染をしたものがそのセシウムを濃縮するようなもので、その
537 できるだけそのゴミというか、その使えないところが少なくするような濃縮技術というようなも
538 のが出来あがってくれば、また時間が短くなってくると思うし。ただそれを、今の希望的観測
539 とかそういうことで話し合っただけじゃ済むようなものではないと。だからこそ、僕は、これはこういう、
540 30年なら30年という、町長が初めてこういうふうな方策、遅くなったけれども、ここまで出せ
541 と正直言いました。「言ってもらわないと誰もついて来れないよ」と。「ここのリーダーシップを
542 発揮して言ってくださいよ」と言ったら、30年という話出るんだったら、その30年というもの
543 をまず置いた上で、見直しをしながらやっていく。ただ目標というものを決めておかないといけ
544 ないんで、目標値としてはこのぐらい置いておくというのは、僕はありかなと思って。それが、
545 「早くなる遅くなるは見直しごとに決めていきましょうよ」というのが、これ答えじゃないの
546 かなと僕正直なところ思うのですが。皆さんのご意見をあとで聞きたいと思うのですが、いかがで
547 しょうか。どうもありがとうございます。

548 【三井所 清典 委員長】

549 木村先生がお出でになって、いろいろこうモヤモヤやしているところが整理されていく感じが
550 するんですけど、確かな情報というのに則って結論を下していきたい。確かな情報がないときは
551 は目標を定める。その町の総合開発計画10年を目途に長期と言いながら立てて、それを3年ご
552 とに見直していくというのは普通の普通の町でもやることなんですね。この場合に30年という
553 目標を立てて、この点線は10年おきに入っているんですけども、技術の進展、科学者の精密
554 な科学者の研究成果を活かすとか、あるいは天然のいろいろな条件によって変わってくるとか
555 いうことで考えを重ねていく、変えていく、調整していく、そういうことで、いろいろなことが
556 可能になってくる。そのためには、今この地区別に分かれて変えるとか、あるいは一斉に帰ると
557 かという内容がありました。土地の所有がそのままの所有なのか、所有権を一度バラして、ある
558 いは利用権としてどういうふうに考えていくかというなことを考えながら、帰還ということを、
559 帰還する双葉町のまちづくりを考えていかななくてはならないというふうに思うんですけど、そ
560 ういう問題を見直しているときにどういうふうな議論があるということは想定できれば想定し
561 ながら、目標を立てて見直していこうというふうになっていくといいかなと思っております。そ
562 ういう意味でいろいろな意見が出てきて、そんなことも将来可能かもしれないというふうに思い
563 ながら議論していきたいと思うんですけど。そういうふうに木村先生の話を受け止めさせてい
564 ただいて、30年というのは短いかもしれないけれども、とりあえず目標として置きましょう。
565 そのあと、見直ししながら早くなれば幸せというふうに思いながら、見て行くようなことでいか
566 がかと。私は、外部の人間ですので、こういうことを言うんです。委員長の立場で言わせていた
567 だいたのですが、いかがでしょうかね。個人的にモヤモヤしていることがあったら、ぜひ発言し
568 ていただきたいと思いますが。

569 【松本 浩一 委員】

570 松本です。確か1月8日が住民アンケートの締切だったように記憶しておりますが、駒田課長
571 さんそうだったでしょうか。

572 【事務局 駒田 義誌】

573 はい。

574 【松本 浩一 委員】

575 今ここでその回収状況とかその住民アンケートの中身については、整理の最中だと思うからい
576 いんですけれども、そのことについての話し合い等は私たち以外の本当の民意だと思います。こ
577 この会議も民意の代表でありますけれども、その状況についてもしお答えできるなら、お聞きし
578 たいのですけれども。

579 【事務局 駒田 義誌】

580 住民意向調査について、1月8日を締切ということで、若干まだそれ以降も来ているのがござ
581 います。今の回収の状況は、全員の皆さんに調査票をお送りしていますけれども、「回収する
582 ときには皆さん家族でまとめて封筒に入れて、お送りください」とお願いしていたので、封筒の回
583 収率は世帯に対して、大体6割ぐらいの回収になっております。それを今封筒一個一個開けて票
584 が何通入っているか確認して集計作業を進めているところですので、まだ正確に何通集まってい
585 るのかというところはまだ整理している段階ですけれども、世帯に対しては大体6割ぐらい封筒
586 が返ってきているのが今の現状です。そこは整理をして2月には、皆さんにこの委員会の場で、
587 結果報告をしたいなと思って集計作業を進めているところです。

588 【松本 浩一 委員】

589 はい、わかりました。

590 【三井所 清典 委員長】

591 個人的ではどういうふうに思いますか。今の30年とか短いとか長いとか。

592 【松本 浩一 委員】

593 どうなんでしょう。科学者じゃないので、例えば木村先生のお話をお伺いすれば、「そうなん
594 だな」と思うんですけれども。皆さん150年と言ったならば、ここにいらっしゃる方も現存する
595 方もいなくて、本当に「孫もいるのかな」とそういう話になると思うんですけれども。どうなん
596 でしょう。他の町が5年と言ってるのも目標なんだろうなと思うし。30年経ったら、自分は何
597 歳ぐらいなんだろうなとしかまだ思いつかないので、感覚的にまだわかりません。

598 【三井所 清典 委員長】

599 今、とてもいい話をさせていただいていると思いますけれども、「他の町が短い期間を想定して
600 いるのも目標なんではないか」と、今おっしゃいましたよね。現実には本当に線量が下がれば、目
601 標の時間で帰ってくることになるかもしれない。下がらなければ、もっと延びるかもしれないと
602 いうことをおっしゃっているわけですよ。短い他の町のことについても、そういう確定ではな
603 いだろうというような認識をもつことは、今重要なことではないかと思います。

604 先に進みますかね。この資料6、資料7あたりについてのご質問は、あるいはご意見はござい
605 ませんかでしょうか。今30年の話が先に聞きました。項目は概ね3つの項目とか、細項目ありま
606 すけれども、お認めいただいて、あとでお聞きになることはぜひ事務局に併せてお伝え願って、
607 もう一度、31日の会議はここのところも検討したいと思っております。異議なしということで

608 先に進んでよろしいですか。もう部会に入ったほうがいいですか。資料6で若い子の意見ありま
609 せんか。資料6とか、大きな話でも、モヤモヤしている話でも、何でもかまいませんけど。

610 【藤田 博司 委員】

611 藤田です。いつもお世話になっております。5年先あるいは30年先の問題いろいろなお話が
612 あったようですが、私も耳にするところ、30年と言うと、あまりに長すぎて町民が付いて
613 こないんじゃないかというようなお話も承っています。よその町長さんたちはどんなお考えで、
614 その5年か8年かというようなことをなさっているのか。それは1つの悪く言えば、テクニック
615 として町民を引きつけていくために小出しに何年何年というふうにやっているのかなというふう
616 な木村先生のお話等の150年うんぬんというのを聞くと、「そういうことがあるのかな」とい
617 うふうに、実は私は考えてもいたのですけれども。この5年あるいは30年という双葉町に道筋
618 を出したわけですけれども。確かにあの30年なれば、私も70歳を超えていますから100歳で
619 長者番付に一番上になるぐらいになるんですが、そういうふうな状態で。そういうふうな流れで、
620 スパンでいろいろと計画していくということも大事な事かと思えます。井戸川町長があまりに
621 も正直すぎて30年と出して、それが町民に与えた影響というものも非常にかかりましたという
622 ようなお話の年配の方々からも耳にしたというような話もだいぶ入ってますので。それはそれと
623 して、この30年の前に、5年だったら5年、あるいは10年、20年というふうにその都度、進
624 捗状況によってどういうふうにするかは検討するのは当然だと思いますけれども。さっき、西内
625 委員の方からお話がありましたけれども、こういう話も私耳にしています。「今仮設住宅とか借
626 上住宅に住んでいるんだけれども、非常に厳しい」と。「早く公営災害住宅という長く住まれる、
627 そして少し部屋数が多いとか、そういう自分たちの生活のできるそういう家を早くつくってもら
628 えば、私らはすぐにそちらに行きたいんだけれども」という話も相当多く聞いています。この
629 点々がうんぬんというお話もありましたけれども、そのことに自分たちが復興していく、やって
630 いく上においては、早くその点を、仮の町を早くつくって、それで皆さんがこの窮屈なところ
631 の生活から抜け出すような、そういうふうな手助けをしなければならぬんじゃないかというふう
632 に思っております。それであと、避難生活をなくしてしまう言葉がいいんじゃないかと先生のお
633 話もあったんですけれども、避難生活には間違いはないんですよ。いくらい言葉を言い張って
634 もね。私としては避難生活しているんだから避難生活で少しでも前が明るく見えるようないい言
635 葉をつくったにしても、避難生活に変わりが無いから私は、私個人としては、皆さんはどうおっ
636 しゃるかは、それはご自由ですけれども、私はそんなふうに思っております。以上です。

637 【三井所 清典 委員長】

638 ありがとうございます。本当に早く帰りたいと思っていられる方にとっては長すぎる30
639 年という認識だと思われま。藤田委員の今のお話で後半の、だからこそ本当にちゃんとした仮
640 の町、浪江では町外コミュニティと言ってるんですけれども、ちゃんとした町外コミュニティあ
641 るいは、仮の町をきちんとつくっていく。それができるだけ早くきちんとしたものになっていく
642 といいんじゃないかと。それをいかに充実したものにつくっていくかということに、テーマを置
643 いて見直しながら、できるだけ早く双葉への帰還を期待するという、そういうことになるんです
644 かね。

645 【宇杉 和夫 委員】

646 私、都市計画と地域デザインと、なんていうのかその空間デザインの一応プロなんですね。空
647 間は生活と関連がありますので、今きずな部会に置いていただいています。大変、皆さんがご自
648 分たちの大きな流れの中で考えていくとか大変大事なことだと思いますけども、もちろん3代先
649 も皆さん方のご子孫のことでもありますけれども、3代先、4代先になれば、やはりそのお方だけ
650 でなくて日本の、国民の先の方の少なくとも私も少なくとも当事者のような気がして、その方々
651 にどういう空間を残すかとかこういう大きなテーマで、もちろん人類の経験がなかったかどうかこ
652 れはウクライナと一緒になるかなるかどうかわかりませんが、少なくとも日本では体験がな
653 かったことなんですね。ですから、気になることはたくさんあります。でも、例えば30年か50
654 年か70年か、これは気になりますけども、これによって、ゴロゴロと計画が変わるのでは困る。
655 それでは困ると思うんですね。また一方では、今困ってることがたくさんあります。今困って
656 いることがたくさんあるけど、これをどうするかということも大事なことですけど、これを基にし
657 て計画がうまく決まるかは、なかなか難しいところもあるんです。そういうものを受け入れる全
658 体的な、我々の言葉で言えば、計画のフレーム、そこについては例えば、30年でも50年でも75
659 年でも150年でも、少なくとも来年入るわけではないのですので、それをどういうふうに入れる
660 かという枠組みが少し今必要な時期になってきています。もちろん、今大変な生活のなかに複雑
661 なものがあります。それも、そこだけと、あと30年後、50年後、場合によっては中間貯蔵施設
662 を最終的にどうするのか、そこは見通しが立たないとできないということではできませんので、
663 大きな20年、30年なんかの問題と今のみんなが繋ぐ仕組みを、そういうものがいろいろ変わっ
664 ても変わらない仕組みを、この我々がこの半年で何をするかという今大変、町長さんも来られた
665 からのように、大変大事な時期かというふうに思います。

666 【三井所 清典 委員長】

667 仮の町を、例えば10年の仮の町をつくるのと、30年の仮の町をつくるのと、やっぱり
668 つくる内容違うと思うんですね。「10年だったら、我慢してこれ言うもんでなくてもいいか」と
669 か、というようなことも考えられる、「30年だったら、少なくともこういうものがないといけない
670 ね」ということも思ったりしますよね。そういう意味でこれからの仮設住宅から出て、次の住ま
671 いに住むときには、やはり30年は短い想定ぐらいのつもりでいい町をつくっていかないと、そ
672 こでつくったものがまた無駄になるということになっちゃいますし、いろいろな考え方をしてい
673 ただいて結構だと思いますけど。やはり充実した個人の生活、あるいは、コミュニティ、まとま
674 り、双葉の町民としての生活というのができるにはどうしたらいいのかというのをじっくり考え
675 ていただくには30年ぐらいおいて考えるというのが、短い期間として、一番長いんじゃないか
676 とそんな感じがするんですけども。本当はもっと長い想定しながら考えた方がいいぐらいの仮の町
677 だと思いますけど。それは仮の町という名称は、また別なんですけどね。次の定住地をどうい
678 ふうに考えるのかということだと思ってしまうんですけども。30年というのは、少なくとも定住ですよ
679 ね。あるいは、それ以上とかというもあるとすれば。

680 【中村 希雄 委員】

681 中村です。私は、30年云々はそういうことは端から全然何とも思っていないんで。現実、仮
682 の町がどこにできようが、どういう町ができようがそれも我々の今話している計画でつくればい
683 いんですが、先程、西内委員が言われた、この資料7の災害公営住宅の件なんですけど、今いる仮

684 設、借上げ、現在いるわけですよ。その人たちにとって確かに「早くやってくれ」という意見
685 はあるんですが、そう望まれるような、みんなが望むようなものが早急にできるわけがないので、
686 それならば、今その汲々として、もううつ状態になっている人たちをまず現状から脱してあげる
687 ことが最善の道だと思うんです。私もダルマ市に13日に初めて仮設住宅なるものをどうい
688 のか南台に見に行きました。私はああいうところでは狭くて居れませんね。私、現在、並木、つ
689 くばにいますが、そこである人は南台に居たら、1ヵ月で頭が痛くなって出てきたと、なる
690 程、私も覗いたらそれも当然だと思ったんですね。それから我々恵まれたつくばであっても、正
691 式には、居住期間が来年の3月いっぱいというふうに言われているんです。それから巷で言われ
692 ている借上げアパートについても、1年とか2年とか言われてますよね。仮の町以前に、今私た
693 ちの一番心配、今の場所に不安ごとはいつまで居れるか、そのためには、今日が17日で阪神淡
694 路大震災18年目ということなんです、あそこでは借上げ住宅は、20年間は住めて、その借上
695 げ住宅を災害公営住宅扱いにしてくれているんですね。今住んでいる人たちは後2年で無くなる
696 んで、大半の人が次の住みかにしたかったと言ってるんですが、その要望に対しまして、神戸市
697 ともう一つどっかの市は、2つは延長を了解しているようなんですね。他の市町村ですか市はまだ
698 OKしていないと。ですからこういう20年間借上げを災害公営住宅に認めてるエリアもある
699 わけですから、現在居る双葉、避難されている人たちが、本当につらい思いをされているわけ
700 すから、その人たちの現在の居住環境を整えるために、前回も申しあげたのですが、もう一度大
701 変な思いをしている人たちに今の住環境を見つめ直して、もう一度チャンスを与えて移動させて
702 あげるぐらいの度量が県にあってもいいんじゃないかと思うんですよ。前にも県に聞いたんです
703 が、12月28日現在で移動はまかりならんと。県知事から避難先の各知事へ要望が出て、それが
704 もう切れましたよね。あれはほとんどないことだと思うんですよ。全く避難されている人たちの
705 ことを考えていないんじゃないかと。理由は1年経ったから落ち着いたらろうと、そのような考
706 えのようなんです、福島県議会でもそのようなことが話題に挙げられたようには伺っているん
707 ですが、その後絶ち切りになっているようです。ですから私が言いたいのは、現在居る借上げ、
708 仮設、そういうものを災害公営住宅に変えてもらって、国なりが20年、あるいは仮の町に移動
709 する人、あるいは自分で家を買う人、そういう人たちの生活が守られるまで、この災害公営住宅
710 として保証すれば、30年かかったって一向に構わないわけなんですよ。今いる状況は大変なん
711 です。それを救わない限り、こういう話してたって埒あかないと思うんですよ、私は。以上です。

712 【三井所 清典 委員長】

713 どうもありがとうございました。仮設住宅、みなし仮設は借上げ、公営というものがあるわけ
714 ですけども、少なくともそのレベルに早く住まいの拠点を移すこと、そういう努力をしてほしい
715 という意見が出されました。仮設に住んでいる、仮設の状況というのも、法律のいろいろな問題
716 がありますので、そう簡単にいかないと思いますけれども、とにかく中村委員からはとりあえず
717 の避難で家族がバラバラになったりして、「本当に安定した避難生活を送るためには移動が必要
718 な人もいるはずだ」という意見が、大変重要な意見として伺っているんですけれども。その方向
719 の努力は町にもお願いしたいな、県にもお願いしたいなっていうふうに思いますね。

720 【齊藤 宗一 委員】

721 ただいまのその仮設のお話しがございましたが、そのいわきの仮設の齊藤です。実は、15日

722 に自民党の大島総務会長がお出でになりました。あとは地元の国会議員のお二方、あとは参議員
723 の岩城光英さんとか、後は県議会のみんな自民党の方々ばかりお出でになったんですが、幹事
724 長、副幹事長、吉田栄光さんとか、その方々がお出でになりまして、そこなかで、みんなの仮
725 設に住む方々のご意見をいただきたいということで、話に出たのが、今のこの避難生活いつまで
726 続く話、仮設の延長はあんでしょうけども、何よりも私たちのこの生活、隣で気使って生活する
727 仮設から早く出していただきたいと。そして、災害公営住宅の早期の建築促進をしていただきたい
728 と、それは縛られているというのはね、そういった感情から出た意見だと思います。後は高齢
729 者が多いんですね。ここは一応福島県から離れた県でございますが、やっぱり地元の県にいると
730 いう人は高齢者が特に多いです。3分の1が双葉町ばかりでなくて、高齢者のほとんどが地元の
731 福島県にいるというそんな感じのようなんです。そのなかで自民党が与党になって、私たちの
732 希望を聞き入れて回ってくれているわけなんです、そのこととしては、そういった意見が相次
733 いで出たというのがあったばかりの話なんです。そんな中で、先程も5年にするか5年、30年
734 なんて話もありましたけれど、私自身も帰れないっていう気持ちでいっぱいでございます。ここ
735 のなかでも委員さんのなかでは、私は多分若い方かと思います。まだ60歳になったばかりです
736 から。そんななかで後は30年とって、これうまくいけば、「90歳まで生きていられっかな」
737 と、そんな感じですけども。ですから、見直しの期間ですか、一応は30年、その話で結構で
738 すけれども、やっぱり一文設けて「5年に1回の見直し」とか。例えばこの農地関係、私も以前
739 まで農業委員やってますけども、この農地管理にしましても5年に1回の見直しがあるんですよ。
740 そのまわりの環境も変わりますし。これも30年、言葉で言うのは簡単ですけども、やっぱり
741 見直しをかけていくということを一文設けておいてやられたらいかかなと思います。

742 【三井所 清典 委員長】

743 どうもありがとうございました。若い方いかがでしょう。ご意見を、お二人にお願いしたいと
744 思います。

745 【渡邊 ゆかり 委員】

746 渡邊です。今の皆さんの話を聞いていて、やはり木村先生のご講演もありましたが、私も子ど
747 もがいるので、町長さんが30年とおっしゃいましたけれども、長く帰れないのは仕方がないな
748 というふうには思います。資料7の下の原発収束作業ということでも書いてありますけれども、
749 廃炉完了まで3、40年程かかると。本当に安心して帰れるまで、安心だと思えるまで帰れないな
750 と思いますし、30年経ったら私もそれこそ退職を迎えるような年齢になりますし、子どもたちも
751 バリバリ働いているような、しっかりと働いているような年齢になるので、30年経って帰るの
752 かということを考えるとちょっと難しいのかなと思う部分もあります。やはり、委員長さんも言
753 っていられませんでしたけれども、本当に定住できるいい町、仮の町というものではなくて、定
754 住できるいい町をつくっていかねばいけないなと思いましたが、高齢の方が本当にそこで安
755 心して生活できる、ここに定住してもいいなと思えるような町を早くつくらなければいけないな
756 というふうに思いました。以上です。

757 【三井所 清典 委員長】

758 ありがとうございます。いかがですか。

759 【伊澤 慶昭 委員】

760 伊澤です。私の方では、地元の友達とよくいまだに会うんですが、やっぱりどうしても集まれ
761 る場所がないのが一番寂しいということ。一番仲のいい友達なんかは、昔は5分で会えるよう
762 な友達だったのですが、今は会うのに12時間かかるので、ちょっとそういう問題もありまして。
763 双葉住民だから、泊まっていよいよとか、そういった場所の確保は30年後を目標とするわけでも
764 なくて、これは帰還を30年後と目標にしているのはいいんですけども、これも他のやつも見
765 直しがかかると思うのですが、ふるさとへの帰還とは別に目標を10年後だとか、もっと細かく
766 再建については、特にもっと短い期間で、きずな部会だとか、人との付き合いは短い間に何回か
767 会っていないとどんどん人の付き合いはなくなってしまうので、どうしても短いスパンで会わな
768 いとどんどん仲も疎遠になってしまうと思いますので、双葉町の仲という仲の良さまでも、その
769 期間の長さにおいて、引き裂かれてしまうような気がするので、できればそのきずなであったり、
770 町民と会う、そういったことに関しては、もっともっと短いスパンで見たいなと思
771 いました。以上です。

772 【三井所 清典 委員長】

773 今の問題は議論していただきたい部会で議論、もうすでにされていると思いますけれども、ど
774 ういう経過をとりながら、生活を送っていくか、コミュニティの維持だとか、きずなを結ぶとか、
775 お墓参りに行くとか、お祭りをするとか、いろいろなイベントをどういうふうに組みながら、近
776 くにいる人、あるいは遠くにいる人も含めて会える機会をどうするかという問題が、ソフトの開
777 発に伴ってあるんだと思うんですね。それはぜひ活発にできるようになるといいなというふうに
778 思いますよね。皆さんそう思っていらっしゃっていると思いますので、少し具体的な検討をして
779 いただければと思います。

780 【齊藤 宗一 委員】

781 もう1点だけ。私のところの仮設でいろいろな支援を受けているわけなんです、その方々の
782 支援の方々がお出でになったとき、その度に私挨拶させられるんです。その度に、私のところ
783 では、今日みたいな話を何十年とか帰れる帰れないとか、絶対禁句なんです。例えば、高齢者が
784 半分以上いるんです。この間のこの30年という言葉がすごく引っ掛かってるんですね。テレ
785 ビで見たりしてるから。先日だって、ダルマ市というものが12、13日とございまして、約5,000
786 人程お集まりいただいたそうです。ほとんどの大部分の双葉町の人が久しぶりの対面をしたわけ
787 なんです、涙の対面でしたよね。そんなことでお会いしましたけれども、私自身も挨拶させら
788 れて、「ただ楽しく生きましょう、今日も明日も今年も」ということでね。そんな挨拶しました
789 けれどもね。本当に高齢者の前では、何年に帰れるのか、これは私自身も禁句にしているんです。
790 ですから、先程「住みたくない」とありましたけれども、誰しもが好き好んで住んでいるわけ
791 ではございません。1棟が、数5戸か6戸あるんですね。こっちで大きな声がしたら端まで聞こ
792 えるんですよ。朝早く誰かが洗濯機まわしたら全部響くんですよ。そういった仮設なんですよ。ね。
793 あれが木造だったら響かないんでしょうけども、プレハブですから全部響くんですよ。夫婦喧嘩
794 して大きな声出したらみんな聞こえますよ。私も「そんな怒らせんな」と、「怒らせるのが悪い」
795 だなんて、逆にまた怒っちゃいますけども、やっぱり明るい場所がない。ただ1つ、外に出れば、
796 隣の人、町民にまた会える、そういったことで挨拶をしながら、また頑張りましょうでやってま
797 すけれども、本当に何年という刻みに、先程宇杉先生の方からある程度期間、スパンを持たない

798 と、決めないといけないんじゃないかと言われたとき、実は私、疑問に思ったんですよ。私らの
799 頭の中で、本当だったら決めたいんですけども、将来分からないんですよ。ですから、そこ
800 に向かった、先生方のご指導もいただきたいなと思って、そんな感じで受けました。どうぞよろ
801 しくお願いします。

802 【三井所 清典 委員長】

803 本当に高齢の方で早く帰りたいと思っていらっしゃる方に 30 年と聞いた途端、すごいショッ
804 クを与えてしまうようなことになってはいけないという配慮が必要、どういうふうにするかと
805 の関係を結んでいくかという話を、線量の話と双葉郡のいろいろなところで、いろいろなことが
806 起きてくるでしょうから、共同して進めていくとかあると思いますし、何度も話題になってます
807 けれど、お墓参りのようなこととか、短期滞在とかいうことも含めていろいろな経験をしながら
808 経過を過ごしていくというような話を少しずつ話し合っていくかなと感じがします。本当にご苦
809 労様でございます。概ねご意見が出たということでよろしいでしょうか。事務局の 31 日に向け
810 ての作業も今の話をいろいろ伺って進むことだろうと思いますが。それでは、部会でもあります
811 し、間でご意見を出していただくこともございますので。とりあえず、前半の復興まちづくりの
812 骨子についての検討をこれで終わりたいと思います。次は部会に分かれて話し合いたいと思いま
813 す。よろしくお願いいたします。

814

815

816 [各部会終了後、委員会再開]

817

818 2. 議 事 (後半)

819 (1) 各部会の審議結果の報告について

820 【三井所 清典 委員長】

821 皆様部会の審議お疲れさまでございました。それでは、委員会の全体会議を再開いたします。
822 3 つの部会でテーマごとに計画に盛り込む内容についてご審議いただいたと思いますので、後半
823 のこの委員会では各部会での本日の審議結果についてご報告をいただいてご質問などいただき
824 たいと思います。よろしくお願いいたします。それではまず生活再建部会について、高野重紘部
825 会長から説明をお願いいたします

826 【高野 重紘 委員】

827 では生活再建部会の話し合いの結果を発表いたします。仮の町の実現に向けた取組として、「仮
828 の町の規模が小さくなると、受入自治体に溶け込んでいけないといけなくなる。」「仮の町を集中
829 型にするとデメリットもあるので 2、3 ヶ所に分散していくのが良い。」「仮の町の費用は個人に
830 回してほしい。」「仮の町は早くつくってほしい。」こういうお話がありました。3 番として教育
831 環境の確保の取組として、学校は仮の町を切り離して早期に再開するべきである。4 番、当面の
832 避難生活の改善の取組として、「仮設住宅、借上げに住めるように借上げを公営住宅扱いにして
833 ほしい」、こういう要望がございました。以上です。

834 【三井所 清典 委員長】

835 どうもありがとうございました。聞き取れなかったところとか何かございましたら、確認の話

836 あるいは質問、あるいは仮の町の規模などについて数などについてとご意見ございましたら。学
837 校問題では仮の町とは切り離して早期に開設すべきというような話があったりとか、重要な話
838 がでてきてます。この生活再建部会について補足してほしいというようなご意見ございませんで
839 しょうか。他の部会の皆様。

840 【宇杉 和夫 委員】

841 仮の町もいっぺんにつくる訳ではありませんので、その仮の町をつくっていくプロセスの中で
842 学校を先にとということもあるんじゃないですか。仮の町をいっぺんにつくるわけではなくて、仮
843 の町の仕組みの中でですね。

844 【高野 重紘 委員】

845 だから切り離して考えるということです。

846 【三井所 清典 委員長】

847 仮の町ができてから学校をつくるのではなくて。

848 【宇杉 和夫 委員】

849 そうじゃないんですけど、仮の町を後からできるとしてもやっぱり切り離すと言う言葉の捉え
850 方ですけども、先行してまたつくるわけですよ。関係があるように思います。

851 【三井所 清典 委員長】

852 先行してつくる学校はいくつぐらいつくるのでしょうか。つくったらいいでしょうかね。

853 【末永 幸弘 委員】

854 双葉南小学校長の末永です。今現在、双葉郡の学校の状況で、これまで2年近くになりますけ
855 ども、どのような立ち上げの形態があったかと申します。社屋みたいなそういったところをお借
856 りしてとりあえず2、30人集まったそういった児童生徒でやった学校。それから廃校になった学
857 校をその自治体にお借りして立ち上げたというようなところ、それから最近は、そういったとこ
858 ろからさらにステップアップしまして、仮設の校舎です。大熊の中学校なんかはとりあえず会津
859 若松市の昔の若松女子高等学校と言いましたが、そういうところに入ったんですけども、手狭
860 になってしまったがために、今仮設の学校をつくっております。それから檜葉小中、これも一旦
861 いわき市の社屋をお借りして、ビジネススクールですかね。そういったところに入ってやってま
862 したが、手狭になって、今いわき明星大学の敷地内につくりまして、3学期からそちらに通っ
863 ます。そういった形態があります。双葉町が例えばいわきに1つ拠点をつくとすれば、かなり
864 の児童が今いわきにあります。ただ、分散しております。80人近い子どもがいるはずなんです
865 が、1ヵ所に集中はしておりません。今、いるとすれば南台仮設。あそこが大きな人数がいる訳
866 ですけども、平の市街の学校に行ってる子もいますし、いろいろなところに分散、いわきは非
867 常に広いんで、そういった形になるんで。もしそこで学校の立ち上げとなりましたら、やはりそ
868 ういったなんか社屋を借りるか、またはプレハブの校舎をつくるか、それはどれだけその学校
869 に通ってもらえるかということだと思っただけですね。ですから意向調査が非常に大事だと思います。
870 そういった形で意向調査をして、少なくとも複式という形がありますので、学校の立ち上げは可
871 能です。おそらく希望者はいるはずで。そういった形でどこかをお借りしてやるか又はプレハ
872 ブの校舎を建てるか、そんな形で、とりあえずはそういう形でどんどん子どもたちが増
873 えることを努力してって、そのうちに20年30年というそういう仮の町の話が出た時にきちっと

874 したものをつくっていただけるかどうかという話しになると思うんですね。段階的にやはりやり
875 たいんですが、とりあえずとにかく子どもたちが集まらないことには、今どンドンいろいろなど
876 ころに行っちゃって、親御さんもそこで子どもたちが慣れちゃったと転校させたくないんだとそ
877 そんな気持ちになってますので、もう2年ですので、もうかなり子どもたちはその学校に慣れてしま
878 っています。それをどう引き戻すか。それはやっぱり双葉町の教育、こういった教育するんだ
879 というウリをつくらない限りは子どもたちは集まらない。例えばですが、大熊町は、今年、IT、
880 子どもたちにiPadを持たせて授業すると言ってるんですね。そういったことで川内も行っていま
881 す。川内中学校も。とにかく何か親にこれをやるんだよ。少人数の良さ、それから個別教育の良
882 さ、「徹底してやるよ」、「学力をつけますよ」、そういった何か良さを売っていかないと、今もう
883 子どもたちは集まれない、集まらない。親はそういうなんかそんな気持ちで居るんじゃないかな
884 という思いであります。ちょっと長くなりました。

885 【三井所 清典 委員長】

886 大変重要な話で難しく、しかも早く決心しなくちゃいけないとすると、別に検討する必要が
887 あるかもしれないという気になるぐらいの話だったと思いました。今、私質問したのは、いくつ
888 かというのは、今の話の中で「南台の仮設の周りに1つつくことも可能だね」というふうに理
889 解をしたんですけど、例えば、郡山にも双葉の小学校をつくるとことは可能なんですか。要する
890 に2つつくとか、1つだけじゃなくて。

891 【末永 幸弘 委員】

892 現在、分室みたいな形で、例えば双葉は北小、南小2つありますが、こういった話にはならな
893 いと思うんですね。これにはかなり法的なことも絡みますので。分校みたいな形で、分室みた
894 いな形で。でもその辺になりますと教員の問題も絡んできますので、県に負担教職員でそういった
895 2ヵ所でやるというのは、サテライトですね。今高校はそんな形で震災直後やりました。いろ
896 いろな場所に双葉高校のサテライトと言う形で置きましたけど、小学校ではそういう形はないです。
897 どっちかと言いましたら、北小、南小合せて1つのところに子どもを集めて、学校は北小、南小
898 という2つの名前で教員を確保しちゃって、倍の人数を確保できますので、そういう形でやるし
899 かないですね。分散はちょっと難しいですね。

900 【三井所 清典 委員長】

901 難しいですか。いろいろ制度上の難しい話もあるようなんですが、今回の災害はこれまでなか
902 ったような災害ですので、「今までのルール通りでは満足できない」、「教育を執行していくのは
903 難しい」という見方もあり得ると思いますので、できるだけ希望が満足できるように多くの子ど
904 もさんがおいでになるところには、分校のようなものでも必要なんじゃないかという新しい要望
905 も必要かもしれません。いろいろ検討も必要ですが、これ事務局では何か方向性、もう少し検討
906 してからですかね。すごく早く決心しなくちゃいけないとすると仮の町の話の一部としてなんか
907 先行的に決めなくちゃいけない話のような内容だと受け止めました。他にございませんでしょ
908 か。

909 【齊藤 宗一 委員】

910 ただいまのご意見ですが、私自身は去年の2月ですか、町長に対してもお願いしていたんです
911 が、全然話の進展がなかったんですよ。まず子どもたちがかわいそうだということで。それが、今

912 年で3回目の3月また迎える訳ですね。子どもさん方にすれば、震災後。そうすると、校歌その
913 まま歌いもしないでそのまま1年ぐらい経って、2年目、3年目校歌も歌わないで、このまま過
914 ぐすというそういったことがないように、早期の帰還ということでお願いしてた訳なんです
915 が、それが実現しなかった。先程も町長がいたから、先に話欲しかったなんて言ってましたけども、
916 そういった進め具合がないですね。後ろに職員さん、副町長以下職員さんもいらっしゃいますけ
917 ど、やっぱりそういった考えで子どもたちの分室なんていって気の毒ですけども、「双葉町の名
918 前の付いた学校がないんですか」という、本当に双葉町だけですね、全然ないの。なんでこれ1
919 年経っても去年の2月からなんです。全然考えてくれないというのが残念だな。後ろの職員さ
920 さん担当の方、どういうふうな考え方をお持ちだが、できれば今聞きたいんですけれども。

921 【三井所 清典 委員長】

922 私が答えてはいけないかもしれませんが、その例えばいわきに1つできたとして、その他に
923 避難している多くの子どもたちのためには、無いこととなりますよね、基本的に。今急いでつく
924 った他の自治体の話にしても。そうすると一部は満足するけど他は満足できない状況になるとい
925 うことを考えると、そう簡単に決心できない話かなというふうにも思いましたけど。ごく一部
926 方のために再開する、早く開くという話をどうやって納得するのかなというのは難しい話ですね。

927 【齊藤 宗一 委員】

928 出来る限りの中で分散型になった中で、考え方を示していかないと、だんだん遅れていくと。
929 本当に散らばったらそのまんま。ですから毎回話しをする度何事においてもまとまりが付かない
930 というのがそういう結果を残していく。原因を残していく。そういう結果だと思えますが。みん
931 な心配はしてんでしょーけど。

932 【三井所 清典 委員長】

933 お気持ちわかりますけど、他の全体に広げた話にさせていただきたくないと思います。全ての問
934 題が、そう簡単に決まらない話なものですから。早く決めたところが良かったというには必ずし
935 も思ってもらえないこともあると思うんです。どうやって閉校するかと悩んでらっしゃる
936 こともあると思います。

937 【齊藤 宗一 委員】

938 ですから、よその町村がやっぱりそういったことでやられてる、私この目で見てきました。小
939 学校中学校一緒になってやって、あのいわきの中で。頼もしかったですよ、良かったなと思うん
940 ですよ、ここにいる子どもたちは。

941 【三井所 清典 委員長】

942 何か事務局ございますか。

943 【高野 憲一 委員】

944 教育委員会の高野です。教育委員会といたしましては、この復興まちづくり委員会の中で、皆
945 さんのこういう貴重な意見をいただいて、町がその方向に向いて決定をしていただければ、教育
946 委員会としては校長先生と協調しながら、学校立ち上げに向かっていきたいと考えております。

947 【三井所 清典 委員長】

948 どうもありがとうございます。仮の町の審議のスピードではいけないという認識を多分多く
949 の方がお持ちになったと思いますので、速やかに検討を進めていただけたらなというふうに思い

950 ます。他にございますか。

951 【西内 芳徳 委員】

952 仮の町に向けた取組ということで、短期間、立派なことを随分並べていますけど、実際やるん
953 であればもっとデメリットの部分をどんどん出し合って、その対策を先に講じるべきだと思うん
954 ですよ。地元紙福島民報を取ってますんで、最近もいわき地区に避難している檜葉とか広野の
955 仮設ですか、車ガラス割られたり、ペンキかけられたり、集団生活でいることよっての弊害と
956 いうものも実際出てるんですよ。やはりその原因究明、対策というのはやらなくちゃいけないと
957 思いますし、悪い負の部分を出し合うべきだと思います。もっと。

958 【三井所 清典 委員長】

959 いろいろ状況を認識した、いろいろ状況を知った上での結論というところに持っていかなくち
960 ゃいけないというお話で、そういうのをどうやって乗り越えていくかということでしょうね。

961 【西内 芳徳 委員】

962 進めるのであればそういった現実も盛り込んでいくべきかなという。

963 【三井所 清典 委員長】

964 知った上で決定していかなくちゃいけないと。ありがとうございました。

965 【木村 真三 委員】

966 僕一人がこういう責務というのは一人では無理なので、うちの NPO のスタッフをいろいろ仮
967 設に派遣したりとかして、いろいろ話を聞かせていただいております。やっぱり日和田の仮設住
968 宅とか非常に劣悪な状況なんですよね。もう公衆衛生学的に言っても僕はあり得ないというよ
969 うな状況の中に置かれている。仮設というのはこの双葉町だけではありませんので、僕浪江の赤宇
970 木集会所に避難されていた高濃度汚染された方々のところは、もう僕、この間も、つい一昨日も
971 食事をしに行って、家族付き合いをしているんですが、そういうところに顔を見せて、いろい
972 らなお話を聞くんですが、やっぱりそこ行くと、本当に芯から冷えるような立てつけの悪さとかそ
973 ういったようなものがある。やっぱり仮設の方に入っている方々に対して、本当になんか胸が痛い
974 気持ちでいっぱいなんですよね。やっぱりそういうところも含めて、先程おっしゃってましたよ
975 うに、実はうちの車、NPO の車いわきナンバーなんですけど、いわきナンバーだとやっぱり邪魔
976 されたりとか、いろいろ県内で、浜通りじゃなくて中通りいると、ちょっと邪魔されたりする
977 いうのもちゃんと、うちのスタッフからも報告を受けてる訳ですよ。こういう気持ちというのが、
978 この福島県内でも荒んでくるとかいろいろ問題から生じてます。そういったところを含めた上で、
979 やはりさっきデメリットのお話、デメリットを含めたところでどうやって改善していくか、まず
980 目先のところで改善できることは改善していくのは大切であろうと思いますし、お子様のことや
981 っぱり児童・生徒のことというのは本当に大切で、校長先生おっしゃったように、本当になんか
982 特化するようなメリットがないとダメなんです。と言うのは、僕、栃木県と新潟県に避難されて
983 いる方々にも支援してますので、そういったところからやっぱり支援団体から逆に SOS が来る
984 んです。そういった中で、いじめとかそういった問題もありますし、逆に言うと、もうその地
985 域で母子避難されたような方々は、そこに定住しちゃってもう馴染んでしまっ、校長先生おっ
986 しゃる通りで本当に帰るメリットあるのというところがある訳なんです。やっぱりこの双葉とい
987 うところをこの良さを、残していくためには、それに対して、井戸川町長と僕が個人的にお話し

988 た時でもやっぱりこの教育というものを含めて特化して、何かしらこの双葉にいれば、こういっ
989 た教育が受けられるんだというようなこともちゃんと打ち出せるような形も含めて、出せば必
990 ずや町民も帰って来れるんじゃないか、というようなことも町長おっしゃってますし、やっぱり
991 そういうところも含めて、何か校長先生がおっしゃったようなこと、僕も本当に大切だと感じて
992 おります。あともう1つ、僕は二本松市のアドバイザーやっていますので、健康アドバイザーも含
993 めてやっていますので、健康増進課と共にずっとやってるんですが、もうお子様たちの学力低下と
994 いうよりは体力低下が怖いんです。体力的な低下がこの福島県内ものすごく全国一体力が低下し、
995 さらに福島県内に残っている方々の子どもたちというのは、肥満度が全国一になってしまう。こ
996 れというのは、一番僕怖いのは何が怖いかというと、これ衛生的、医学的なことで言いますと、
997 まず集中力です。健全な精神は健全な肉体に宿るということで、勉強というのは集中力というも
998 のに関与すると校長先生そう思われますが、どうでしょうか。集中力が無いというのは、体力が
999 落ちてしまえば、集中力に関わっていく訳です。この福島を再生する大きなこれ、双葉を含めた
1000 ところで言えば、体力増強も含めて、全てにおいてなんとかこの戻していく復興。本当の意味の
1001 復興というのは、心とか体とかというものを、特に子どもに対してきちんとやっていくというこ
1002 とがあれば、今日私の方のその委員会、ふるさと再建部会の方で話したのは、そういったところ
1003 ですので、やっぱり子どもが帰って来られれば、先がないんだということも含めた形でやっぱり
1004 中心は未来、将来ある方々に対してどうすべきということを考えれば、おのずと双葉という町が
1005 必ず良くなっていく、なんとかつなげ、ありきたりな言葉ですが、きずなというものがつながっ
1006 ていくんじゃないかと思っております。すいません。以上です。

1007 【三井所 清典 委員長】

1008 どうもありがとうございます。教育問題について事務局で今後どういうふうに進んで行くか、
1009 進めていくかというのを委員会としてこのままではいけないのではないだろうかということ
1010 多分皆さんもお感じになってらっしゃると思いますので、新しい部会、もう1つ部会をつくるか
1011 どうかとかいう検討含めて、お願いするのもどうかと思うんですがね。いかがかと思うんですが。
1012 どうでしょうかね。あの時間の及ぶ範囲で考えさせて、考えていただければと思いますけど。

1013 【事務局 駒田 義誌】

1014 そこはこれから部会、委員会の報告をまとめていく中で、当然教育の問題も取り上げていく。

1015 【三井所 清典 委員長】

1016 教育の問題を取り上げていくんだけど、なんか早くまとめなくちゃいけない、早く決心しなく
1017 ちゃいけない内容なので。

1018 【事務局 駒田 義誌】

1019 ただ計画自体3月末なので、ですからこの中でしっかりと整理するというので。

1020 【三井所 清典 委員長】

1021 3月までの間に方向を出すために少し集中的に生活再建部会の中で学校の話を出していただく
1022 とありがたいというふうに思います。それでは、時間が随分過ぎましたが、ふるさと再建部会
1023 で木幡副部長よろしくお願いたします。

1024 【木幡 敏郎 委員】

1025 ふるさと再建部会、「ふるさと再建に向けた取組に盛り込む内容について」ということで、一

1026 応事務局の案に、3点ほどありました。帰還に向けた条件と条件達成に向けた取組、それから双
1027 葉町の当面の土地利用の在り方。それから3点目、双葉町の将来の再興に向けた取組というこの
1028 3点の論点について、みんなで話し合いをいたしました。帰還、先程から30年とかいろいろそ
1029 の年数にもいろいろなご意見ありましたけれど、やっぱり何と言っても、放射線の低減というこ
1030 とが重要ではないかと。それで、まず原発の放射線が現在も福島第一原子力発電所から出ている
1031 と。この漏えいが止まってくれなければ、あるいは止まってくれること、安心・安全これが第一、
1032 これが条件であろうということでもあります。それから先程も話にありました、帰還といってもお
1033 年寄だけではなくて親、子、家族、このやっぱり帰還ということ大事だとすれば、子どもが集ま
1034 らなければ、子どもが集まれば当然学校の開設をするようにしなければならぬ。これが条件に
1035 はなるのではないか。子どもが集まるような環境づくり。このような話がありました。それから
1036 医療、福祉、インフラ、これは当然の話だということでもありました。それから、双葉町の当面の
1037 土地利用の在り方です。双葉町は地震と津波に大変やられたところでもありますから、今後
1038 のまちづくりについては、それに耐えられるような場所、安全性が確認できる場所の選定が大事
1039 だろうと。そのようなことから、コミュニティなど町の復興の姿を土地利用の在り方をやっぱり
1040 第一に考えるべきであるというふうなことが出されました。それから、中間貯蔵施設というこ
1041 とで、これについては、委員全員で、この復興計画にも大変これから影響の大きい問題であります
1042 から、この中間貯蔵施設についての勉強をすべきだろうと。このような要望を出すべきだとい
1043 うことでもありましたので、委員長、ご検討をお願いいたします。以上です。

1044 【三井所 清典 委員長】

1045 どうもありがとうございます。今委員長への要望というのが出てましたけど、その前のそれ
1046 は勉強会の企画、事務局と相談したいと思います。帰還の条件、条件達成のための検討それから
1047 土地利用について補足説明とか他部会からの意見ございますでしょうか。

1048 [なしと呼ぶ委員あり]

1049 【三井所 清典 委員長】

1050 よろしゅうございますか。それじゃまた後程あったら伺いすることにしたいと思いますが、
1051 続いてきずな部会で岡村副部会長から説明お願いいたします。

1052 【岡村 隆夫 副委員長】

1053 高野部会長が今日は休みなもんですから、岡村が担あいたしましたので。まとめたところをち
1054 ょっとお話申し上げます。やはりきずなと言うのは人が中心でなきゃいけないということがまず
1055 前提になるというですね。まずそういう中で、今借上げ住宅などに居住する方の生活支援とい
1056 のはまだ十分されていないと。コミュニティの維持が非常になんか悪いというようなことがあり
1057 ましたので、これは次回のことも含めて、電話帳あたりで連絡を取ったり、それからこれ町の方
1058 には電話帳の話はないんですが、情報出させていただくということと電話帳の作成で賛成してい
1059 だけの方がどれだけいるかによつてこれから皆さんに聞いて、電話帳の作成を検討していこうと、
1060 こんなことやりました。それから、このコミュニティ、現在もそうなんです、これからの問題
1061 もやはり復興のまち、完全なものができるまでやっぱり民生委員等々もうちょっと増やして、かな
1062 り年を召されている方が多いもんですから、もう少しきめの細かい相談なりをやっていけば、や
1063 はり自然とお年寄りの方もまた引っ込み思案の方も前向いていろいろな意見を出していただ

1064 るんじゃないか、とこういうようなことがありました。それから、もう1つこれからの復興につ
1065 いてはやはり文化財の伝承等々考えますと、現在のまずバラバラになってるのをどう集めるかと
1066 いうことと、それから次に伝えていくということが大変重要な事なってきますので、その復興を
1067 させる意味もその場所で人材育成を十分していくということをモットーにそういう場所づくり
1068 を考えていってほしいということで締めております。以上です。

1069 【三井所 清典 委員長】

1070 どうもありがとうございました。前半の委員会でも問題になりました借上げ住宅、生活者の生
1071 活支援をもっと進めるべきではないかという話や民生委員を増やす、もっときめ細かい相談にの
1072 ってサービスをできるようにする。若い人を増やさなきゃいけないということですかね。文化伝
1073 承の話がありました。補足する意見ございませんか。

1074 【宇杉 和夫 委員】

1075 きずな部会の資料2の②の中で「双葉町の歴史、自然と文化継承の取組」ということで、子ど
1076 もたちに双葉町にどういうものがあつたかということをつなげていくということを仮の町と、地
1077 域との交流の中に活かしていくということで今まで話してきましたが、もう1つあの先程あのふ
1078 るさと再建部会の方でもその土地利用の在り方を、イメージをこう考えていく必要があるんじ
1079 ないかということで考えますと、新しい現状の放射線、その他のいろいろその条件をくり抜けた
1080 新しい仕組みをどう考えるかということも大変大事なんです、実際そこにあつた生活が、あと
1081 子どもたちの環境がどんなもんだつたかということの中で、次の世代に引き継いでいくものは何
1082 かということで、土地利用の仕方、大変地形的にも特徴のある文化財だけじゃなくて、私、景観
1083 がちょっと専門なもんですから、東北全体の景観の中でどういう位置付けになるか、三陸の海岸
1084 に比較してどうなのか、福島にはまた文化伝承としては、もらえるようにするか、その他特別な
1085 いろいろ特徴がありますので、そういうものも先程ふるさと再建部会の土地利用の在り方の中
1086 つながっていくのかなというふうな話も出ました。以上です。

1087 【三井所 清典 委員長】

1088 ありがとうございます。他にございませんでしょうか。何か全体についてございますか。

1089 【岡村 隆夫 副委員長】

1090 電話帳の話で委員会の中で出た意見なんですが、これも皆さんにできればここで伺いして答
1091 えをいただければありがたいですが、また次回の時にも結構ですが、やはり電話帳という簡単に
1092 言うとな非常に簡単なんですが、各町村もついたり、考えているということで、その中にいろ
1093 いろな問題点があります。我々きずな部会の中でもやっぱり、電話帳つくってそこまで使えるのか
1094 と、それだけメリットがあるのかと、こういうような意見もありましたし、電話帳というものを
1095 どう考えていくかという非常に大事な事かなと思って、委員会としては次回にこれを検討する
1096 いうふうにしたんですが、もしできれば皆さんの方からも意見がありましたら、お聞かせ願いた
1097 いと思うんですが。個人情報とか、それからつくってもそれだけ使わないんじゃないかとか、そ
1098 れからどこまで名前を書いたものができるものか、こういうようなことがちょっとできてきた
1099 ので、ちょっとできればご意見いただきたいなと思ってます。

1100 【三井所 清典 委員長】

1101 きずな部会から出た問題ですが、この委員会の委員の中での賛否を取ってみたいという、皆さ

1102 んの意見を聞きたいという。

1103 【竹原 天 委員】

1104 単純に無しでしょう、それは。無しでしょう。

1105 【岡村 隆夫 副委員長】

1106 つくらなくていいということですか。

1107 【竹原 天 委員】

1108 うん。できないでしょう、恐らく。

1109 【岡村 隆夫 副委員長】

1110 できないというのは物理的にですか。それとも。

1111 【竹原 天 委員】

1112 物理的にも何も。それでこの個人に了解得なくちゃいけないでしょ。

1113 【岡村 隆夫 副委員長】

1114 もちろん。

1115 【竹原 天 委員】

1116 それまでやって作ったって、今度利用価値の問題考えたら、とてもじゃないが時間くっちゃっ

1117 てしょうがない。結局、それが今度成功するとすれば、今度取り残しが出てくっからね。取り残

1118 し。俺んとこ載んなかったとかなんか。そういうのが結構出てくんで。

1119 【岡村 隆夫 副委員長】

1120 わかりました。今の中で意見は、全部町民に各自に出すと。ただこれ今までの固定電話なん

1121 ですよ。今度はもうたぶん全部携帯電話ですから、本当に個人のものなんです。案として出た

1122 のは、電話帳つくるべきかつくらないべきかというアンケートと、「つくるんならば載せてもい

1123 いですよ」ということ。載せてはまずいという人と、載せてもいいという人ほどこまで載せるか

1124 という、だいたいそういう細分のつくり方はいかなもんなかなあということは出ました。

1125 【竹原 天 委員】

1126 役場に聞くのが一番いいでしょう。

1127 【岡村 隆夫 副委員長】

1128 それをしてはダメなんですよ。

1129 【藤田 博司 委員】

1130 私、下条でこないこのあいだ 12 月 2 日に総会を持ったんですけども、その時に「もし自分の

1131 住所と電話、皆さんに公開してもいいという人はこちらに書いてください」というふうなことで

1132 やったんですが、6 割か 7 割か、8 割ぐらいか、私パーセントまで言ってないんだけど、それで

1133 ダメだという人も一回書いたんだけど、「これ消してください」と言ってきた人もおられたそう

1134 なんです、それで、電話したい人は非常に中にはいる訳なんですよ。ただ下条の人にみんなにこう

1135 電話するわけではないですよ。そのうちの何かの用事でこういうことで電話するのに、あると

1136 いいというような形で、それで、電話番号とか何か教ええない人にはそれはあげないで、それでつ

1137 くれた方にはあげるということで事務局の方でやってもらったと思います。あとこれは個人事な

1138 んですが、うちの私の同級生なんですけど、「わかるか、わかるか」と言って電話で言われても、

1139 顔も見えないし、わかんなくて、あとから良く聞いたらわかったんだけど、「私は柏市にいるん

1140 だけど、誰とも連絡が取れない」と。それでたまたま年賀状だか何か調べたら私の携帯電話わか
1141 ったから、ということで私の所に電話をよこしてくれて、それでは「この人とこの人を教えてく
1142 ださい」という人に言って教えてあげたら、喜んでいただいたということもありまして、独り
1143 でこういるとやはりどうなのかという、電話代も高くなるのも事実なんですけどね。やはり話を
1144 したいという方もおられるのも事実です。以上です。

1145 【木幡 敏郎 委員】

1146 参考までに。下羽鳥地区でも前回総会をやりましたときに、その住所についていろいろ区長さ
1147 んが確認をしてくれましたら、50人ぐらいの中で10人ぐらいは白地だったんですけど、だいた
1148 い後の40人ぐらいはみんな提出してくれました。今こういろいろ2年間近くなりますけど、ま
1149 まだまだ独りでいる方もおりますし、特に私も上尾におるんですけど、近くにいても全然どこに誰
1150 がいるかわからないとかって話し相手もいないとかといろいろ聞きます。そういった意味でよそ
1151 の町で、富岡なんかも確認をしてどこまで出していい、出してダメ、というような確認をしなが
1152 らつくったようですし、その辺の取組はなんかNPOというのかボランティアというんですか、
1153 その辺も入ってつくったんでしょうか。富岡で新聞に出た限りでは私の記憶しかないけど。だか
1154 ら、つくることについて賛成の方の意見が多ければ、多ければと言うよりやった方がいいのでは
1155 ないかと私は思いますよ。これは個人で判断をさせるべきだし、全体としてはつくってもいいの
1156 ではないかと思います。

1157 【齊藤 宗一 委員】

1158 ただ出た中での意見では、私もその部会にいたんですが、やっぱり考えなくただ単にそれを情
1159 報公開して不動産屋が入ってきたなんていう事例もあるようで。もし配布する場合には、みんな
1160 で取りまとめてそういったことには見せない、個人情報主義で、渡さない、見せない。そういう
1161 ようなこともやっぱりやっていかなくちゃ、取組まなくちゃなんないのかなということもあり
1162 ましたね。

1163 【三井所 清典 委員長】

1164 どうもありがとうございました。まさにそのメリットとデメリットの話が出てきて、それが分
1165 かった上でどういうルールでつくるかという話になってきて、話がうまく進んでいるなと思って
1166 おりました。

1167 【岡村 隆夫 副委員長】

1168 またいつでも意見を受け付けておりますので、ぜひ教えてください。ありがとうございました。

1169 【三井所 清典 委員長】

1170 どうもありがとうございました。

1171 【木幡 敏郎 委員】

1172 委員長、中間貯蔵施設についての勉強会についてはどうなんですか。これ大変今、重要な時期、
1173 時期と言いますかいろいろ大変話題になってますので、復興に影響のあるものですから、私たち
1174 が中間貯蔵施設について、ただ単にダメとかいいとかではなくて、やはりどういうものなのか、
1175 それについての疑問などもやはり説明していただくということは大事なのではないかと思います
1176 す。それだからダメとかいいとかというその結論は別にして、委員が、やっぱり勉強することは
1177 大事なことだないかと思うんですがいかがですか。

- 1178 【三井所 清典 委員長】
1179 中間貯蔵施設とは何かという話とそれの中身と技術的な意味での信頼性みたいなものまでい
1180 ろいろあるだろうと思うんですけど、そういう勉強をしないといけないですよ。
- 1181 【木幡 敏郎 委員】
1182 委員会としてはどうなんですかということ。
- 1183 【三井所 清典 委員長】
1184 委員会としてはとても重要な話だと思います。帰還についてもとても重要な話だと思いますし、
1185 土地の利用の仕方についてもとても重要な話だと思いますので、そこらに対する知見が委員の皆
1186 さんに十分ある方が望ましいと思いますが、適切な情報が得られますかね。来て説明いただく話
1187 と調べて報告していただく話と両方とも有り得ると思いますけど。
- 1188 【事務局 駒田 義誌】
1189 中間貯蔵施設については、まさにこれから町民の意見を聞きながら、検討していかないといけ
1190 ないということでやっている中なので、そこは町民の皆さんに意見を聞くタイミングと委員会と
1191 して議論するタイミングがあると思いますので、そこは役場の中できちんと交通整理をさせてい
1192 ただいて、また次回の委員会の時にでもどうするかということをお話させていただく形かなど。
1193 今役場として知っているのは、ホームページに出ているように環境省から来ている回答とか、そ
1194 ういう情報に止まりますので、そういった情報を提供させていただく形ぐらいしか今できること
1195 がないので、その辺のやり方また役場の中、また委員長とも相談して、またお示ししたいと思
1196 います。
- 1197 【木幡 敏郎 委員】
1198 つまりそれ環境省ですか。要望をしてここに来て説明をしてくれるようなそういう広報班とい
1199 うのはないんですかということです。
- 1200 【事務局 駒田 義誌】
1201 まさにそのところは実際住民への説明会だと環境省が今大熊とかも説明してますので、そこ
1202 のタイミングとまた委員会でのご説明のタイミングというがあると思いますので、そこは時期的
1203 な問題は引き取らせてください。
- 1204 【木幡 敏郎 委員】
1205 はい、わかりました。では、そのようにしてやるということでよろしくお願いします。それでい
1206 いますね。
- 1207 【事務局 駒田 義誌】
1208 その意味では住民説明するタイミングと委員会での説明の時期的な問題もあると思いますの
1209 で、逆に役場からということであれば、今環境省から我々が聞いているお話を資料提供などさせ
1210 ていただくような形になると思います。
- 1211 【木幡 敏郎 委員】
1212 環境省直接ということではできないですかね。つまり質疑応答ができないでしょという意味で。
- 1213 【事務局 駒田 義誌】
1214 わかりました。役場の中できちっと交通整理をしてお話、またお示ししたいと思います。
- 1215 【木幡 敏郎 委員】

1216 やっぱりこれ大事な事なんです。ですから本当の専門家とかに直接聞いて本当に大丈夫なの
1217 かとかどうなんだとかですね、その辺をやらないとダメだと思っうんでね。

1218 【三井所 清典 委員長】

1219 よろしゅうございますか。どういうものかという理解から始めなくちゃいけないというのは、
1220 それはある程度情報は環境省の方から出していただくという話はあるけど、さらに質問をして確
1221 認をしたいという気持ちがあるから。

1222 【木村 真三 委員】

1223 今副部会長さんの、木幡委員から出されたもののフォローをしたいと思うんですが、木幡副部
1224 会長自身も実際中間貯蔵というものができるのか、できないのか。また、この復興計画というの
1225 が帰還のことにしても全て入ってきますということと、あと僕自身が考えているのは、これ実
1226 際原発立地町としてその5号機、6号機を持っているこの双葉町。もちろんそういったところも
1227 含めて、この中間貯蔵施設というものがどういう役割なのかというのを知った上でさらにこれす
1228 ごくつらいとこなんです、これ本当に中間なのというところもある訳なんです。最終になっ
1229 てしまうということにならない、なる可能性もあるわけなんです。そこも全て含めた上での復
1230 興ということで、双葉町を考えなきゃいけないでしょうということが十分あって、さらにこれ青
1231 森なんかでは、「今まで核燃料の再処理施設とかそういうのは置くのはいいけどこれ最終にはし
1232 ないよ」と青森はもう言ってるわけですから、これ福島に全て受けるのと。これどんどん全国の
1233 全ての原発廃止とかということになったときにもまた福島に来るのみたいな、こういったことは
1234 非常に難しい問題になる選択になると思うんですが、でもここを避けて通ってしまえば、我々自
1235 身が議論せずに国に全部投げてしまうというのもよくないことだと思うんで、やっぱり委員会と
1236 して、この住民の代表者として皆さん方の意見も含めた形で、知るべきではないか。もちろん僕
1237 も全然知らないんで、そこも含めて勉強会をするのは大切な事であり、そこで決めていくこと
1238 もあるのではないかとということも含めて木幡副部会長から申し出が出た時にどうですか、と言わ
1239 れたので私もそれは勉強した方がいいですね、ということで、私も合意した訳なんです、皆さ
1240 さんもそういった意味でのご理解ということでもよろしくお願ひしたいと思います。

1241 【高野 重紘委員】

1242 「大丈夫だ」以外は言わないですね。

1243 【木村 真三 委員】

1244 そこは判断するのはまた学者なんです。

1245 【三井所 清典 委員長】

1246 すごい確信に触れる話だったと私は思います。極めて重要な話なんで勉強はして、2月3月結
1247 論を出すまでの間には勉強を少し深めたいと思います。

1248

1249 3. 閉 会

1250 【三井所 清典 委員長】

1251 時間がまいりましたので、今日はこれで済ましてよろしゅうございますか。どうもありがと
1252 ございました。

1253

以上

第7回双葉町復興まちづくり委員会座席表

(敬称略)

岡村 隆夫
三井所 清典

1 日時 平成25年1月17日(木)

全体 13:00~14:45
部会 15:00~15:45
全体 16:00~16:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階家庭科室

福島復興局地域班 小野寺 恵二 参事官	(関係者)	高野 重紘	宇杉 和夫	井戸川町長	相楽
		大橋 庸一	木村 真三	事務局 駒田 義誌	事務局 橋本
		吉田 岑子		平岩 邦弘	西牧
福島県 避難地域復興局 安斎 浩記 総括主幹兼副課長	(関係者)	井上 六郎	竹原 天	井上 一芳	吉野
福島県 避難地域復興局 古市 寛之 副主査		中村 富美子	藤田 博司	高野 憲一	事務局 尾崎
		岩元 善一	齊藤 宗一	武内 裕美	山崎
税務課 大沼 武 課長		(代理) 横山 泰仁	中村 希雄	大住 宗重	松崎
生涯学習課 今泉 祐一 課長	(関係者)	末永 幸弘	木幡 敏郎	渡邊 勇	事務局 森
		松本 浩一	西内 芳徳	竹本 良一	
		荒木 幸子	渡邊 ゆかり	(代理) 志賀 睦	
			伊澤 慶昭	(代理) 井戸川 陽一	事務局